

大同二年七月六日第三種郵便物認可  
昭和八年三月十六日第三種郵便物認可  
康德六年十二月二十日發行(日刊)

# 政府公報

康德六年十二月二十日 星期三 (水曜日)

目次  
● 治安部令 軍人軍屬公傷病療養規則  
● 產業部令 鐵鋼類統制法之鐵鋼類中品種指定之件中修正  
● 產業部佈告 關於鐵鋼類統制法之鐵鋼

● 地籍整理局 告土地所有權再審決之件  
● 郵政總局 告鐵道列車內郵便現業事務  
● 之所掌郵路區域及管轄郵政管理局  
● 公告 告商租地管理審決公告  
● 告 告商租地採用考試及格者公

## 部 令

治安部令第五十二號

茲將軍人、軍屬公傷病療養規則制定如左

康德六年十二月二十日

治安部大臣

于琛激

### 軍人、軍屬公傷病療養規則

第一條 軍人及軍屬因公務受傷痍或患病

病需要療養時依本規則之所定以官費使其療養

第二條 本規則所謂軍人者乃指軍官、准

尉官、軍士、兵及第四條所規定之生徒

而言

第三條 本規則所謂軍屬者乃指治安部軍

各機關所屬之文官、囑託員、雇員及傭

人而言

第四條 本規則所謂生徒者乃指武官令所

規定之各兵科部候補生、見習軍醫官、見習司藥官、見習獸醫官、見習技術官

及見習軍法官並陸軍軍官學校豫科生

徒、陸軍興安學校豫科生徒、陸軍興安

學校少年生徒及通信練習生而言

第五條 本規則所謂職務長官者乃指侍從

武官長、憲兵總團司令官、禁衛隊司令

官、軍管區司令官、江上軍司令官、治

安部大臣直屬部隊長、治安部參謀司長、

治安部軍政司長及官房長而言

第六條 第一條所規定之官費療養範圍如左但逾療養上必要之程度者不在此限

一 診察

二 藥劑或治療材料之支給(含藥方之

支給)

三 處置、手術其他之治療

四 病院收容

五 看護

六 移送

七 溫泉療養

八 除前列各款揭載者外於治安部大臣

認爲有必要者

第七條 前條第四款之病院收容依左列等級辦理但於治安部大臣認爲有不得已事

由時不在此限

第六條 第一條ニ規定スル官費療養ノ範圍左ノ如シ但シ療養上必要ノ程度ヲ超エタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

茲ニ軍人、軍屬公傷病療養規則ヲ左ノ通

制定ス

康德六年十二月二十日

治安部大臣

于琛激

### 軍人、軍屬公傷病療養規則

第一條 軍人及軍屬公務ニ因ル傷痍又ハ

疾病ノ爲療養ヲ要スルトキハ本規則ノ

定ムル所ニ依リ官費ヲ以テ療養セシム

第二條 本規則ニ於テ軍人トハ軍官、准

尉官、軍士、兵及第四條ニ規定スル生

徒ヲ謂フ

第三條 本規則ニ於テ軍屬トハ治安部軍

各機關ニ所屬スル文官、囑託員、雇員、

及傭人ヲ謂フ

第四條 本規則ニ於テ生徒トハ武官令ニ

規定スル各兵科部候補生、見習軍醫

官、見習司藥官、見習獸醫官、見習技術官

及見習軍法官並陸軍軍官學校豫科生

徒、陸軍興安學校豫科生徒、陸軍興

安學校少年生徒及通信練習生ヲ謂フ

第五條 本規則ニ於テ職務長官トハ侍從

武官長、憲兵總團司令官、禁衛隊司令

官、軍管區司令官、江上軍司令官、治

安部大臣直屬部隊長、治安部參謀司長、

治安部軍政司長及官房長ヲ謂フ

第六條 第一條ニ規定スル官費療養ノ範圍左ノ如シ但シ療養上必要ノ程度ヲ超エタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

茲ニ軍人、軍屬公傷病療養規則ヲ左ノ通

制定ス

康德六年十二月二十日

治安部大臣

于琛激

### 軍人、軍屬公傷病療養規則

第一條 軍人及軍屬公務ニ因ル傷痍又ハ

疾病ノ爲療養ヲ要スルトキハ本規則ノ

定ムル所ニ依リ官費ヲ以テ療養セシム

第二條 本規則ニ於テ軍人トハ軍官、准

尉官、軍士、兵及第四條ニ規定スル生

徒ヲ謂フ

第三條 本規則ニ於テ軍屬トハ治安部軍

各機關ニ所屬スル文官、囑託員、雇員、

及傭人ヲ謂フ

第四條 本規則ニ於テ生徒トハ武官令ニ

規定スル各兵科部候補生、見習軍醫

官、見習司藥官、見習獸醫官、見習技術官

及見習軍法官並陸軍軍官學校豫科生

徒、陸軍興安學校豫科生徒、陸軍興

安學校少年生徒及通信練習生ヲ謂フ

第五條 本規則ニ於テ職務長官トハ侍從

武官長、憲兵總團司令官、禁衛隊司令

官、軍管區司令官、江上軍司令官、治

安部大臣直屬部隊長、治安部參謀司長、

治安部軍政司長及官房長ヲ謂フ

第六條 第一條ニ規定スル官費療養ノ範圍左ノ如シ但シ療養上必要ノ程度ヲ超エタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

茲ニ軍人、軍屬公傷病療養規則ヲ左ノ通

制定ス

康德六年十二月二十日

治安部大臣

于琛激

### 軍人、軍屬公傷病療養規則

第一條 軍人及軍屬公務ニ因ル傷痍又ハ

疾病ノ爲療養ヲ要スルトキハ本規則ノ

定ムル所ニ依リ官費ヲ以テ療養セシム

第二條 本規則ニ於テ軍人トハ軍官、准

尉官、軍士、兵及第四條ニ規定スル生

徒ヲ謂フ

第三條 本規則ニ於テ軍屬トハ治安部軍

各機關ニ所屬スル文官、囑託員、雇員、

及傭人ヲ謂フ

第四條 本規則ニ於テ生徒トハ武官令ニ

規定スル各兵科部候補生、見習軍醫

官、見習司藥官、見習獸醫官、見習技術官

及見習軍法官並陸軍軍官學校豫科生

徒、陸軍興安學校豫科生徒、陸軍興

安學校少年生徒及通信練習生ヲ謂フ

第五條 本規則ニ於テ職務長官トハ侍從

武官長、憲兵總團司令官、禁衛隊司令

官、軍管區司令官、江上軍司令官、治

安部大臣直屬部隊長、治安部參謀司長、

治安部軍政司長及官房長ヲ謂フ

未滿者)、雇員及傭人 三等

第八條 欲受第六條第一款至第四款之療養時須受所屬部隊軍醫之診斷後聽其指

示於治安部病院受醫療但合於前條第一款至第三款者及特認於治安部病院不適

診療者關於醫療暫得就左列醫療機關  
(以下稱指定醫)受療

一 國立醫院

二 新京特別市立醫院

三 市立醫院

四 縣立醫院

五 滿洲國赤十字社病院

第九條 傷病者不能就前條之醫療機關受治療時得於其他醫療機關受療但祇限於治安部大臣認為有特別事由時

第十條 傷病者於療養中發生受隔地醫療機關之診療或溫泉療養之必要時須預先經職務長官受治安部大臣之認可但須急

受隔地醫療機關之診療時得於事時請追加認可

前項之手續須於願書外添附詳載必要事項之主治醫之意見書但已治安部病院受醫療者欲受溫泉療養時須另添附第十三條所規定之現認證明書或事實證明書及軍醫或醫師之診斷書

第十一條 於左列情形時發給療養費代替療養之給付

一 就治安部病院或指定醫以外之醫師受醫療時

二 已就治安部病院或指定醫受醫療者不能辦理療養之給付時

第十二條 療養費乃爲療養上所需之實費對於傷病者發給之但傷病者死亡或因其他事由難以發給該傷病者時得直接發給醫師或其他之債權者

第十三條 傷病者欲於治安部病院以外之處受醫療時須將受療許可證請領書(第一號書式)足證其傷病起因於公務之現認證明書(第二號書式)或所屬長之事實證明書(第三號書式)及軍醫或醫師之診斷書(第四號書式)經職務長官向治安部大臣提出而受受療許可證(第五號書式)之交付

瓦長期醫療再有受領受療許可證必要時須將受療許可證再請領書(第六號書式)經職務長官向治安部大臣提出而受其再交付

職務長官接受前二項及第十條所規定之書類時須添附呈文(第七號書式)向治安部大臣呈請之

第十四條 傷病者於治安部病院以外之處受第六條第一款至第四款所載之醫療時須隨時於前條之受療許可證內受主治醫

第八條 第六條第一號乃至第四號ノ療養ノ受ケントスルトキハ所屬部隊附軍醫ノ診斷ヲ受ケ其ノ指示ニ從ヒ治安部病院ニ於テ醫療ヲ受クベシ但シ醫療ニ付セザルモノト認ムルモノハ左ニ掲グル

テハ當分ノ間前條第一號乃至第三號該當者及特ニ治安部病院ニ於テ診療ニ付

二 治安部病院又ハ指定醫ニ就キ醫療受療スルコトヲ得

一 國立醫院

二 新京特別市立醫院

三 市立醫院

四 縣立醫院

五 滿洲國赤十字社病院

第九條 傷病者前條ノ醫療機關ニ就キ受療スルコト能ハザルトキハ他ノ醫療機関ニ於テ受療スルコトヲ得但シ治安部大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認メタルトキニ限ル

第十條 傷病者療養中隔地ノ醫療機關ノ診療又ハ溫泉療養ヲ受クル必要生ジタルトキハ豫メ職務長官ヲ經テ治安部大臣ノ認可ヲ受ケバシ但シ隔地ノ醫療機關ノ診療ヲ受クル場合ニ於テ緊急ヲ要スルトキハ事後之ガ追認ヲ受クルコトヲ得

瓦長期醫療再有受領受療許可證必要時須將受療許可證再請領書(第六號書式)經職務長官向治安部大臣提出而受其再交付

職務長官接受前二項及第十條所規定之書類時須添附呈文(第七號書式)向治安部大臣呈請之

第十四條 傷病者於治安部病院以外ニ於テ第六條第一號乃至第四號ニ掲グル醫療

第十一條 左ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ代ヘ療養費ヲ給ス

一 治安部病院又ハ指定醫以外ノ醫師ニ就キ醫療ヲ受ケタルトキ

二 受ケタルトキハ其ノ都度前條ノ受療

第十二條 療養費ハ療養ニ要シタル實費トシ傷病者ニ之ヲ給ス但シ傷病者死亡シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ傷病者ニ給スルコト困難ナル場合ニ於テハ直接醫師其ノ他ノ債權者ニ支拂フコトヲ得

第十三條 傷病者治安部病院以外ニ於テ

醫療ヲ受クルトキハ受療許可證下付願

(第一號書式)其ノ傷病ガ公務ニ起因シタルコトヲ證ズルニ足ル現認證明書

(第二號書式)又ハ所屬長ノ事實證明書

書(第三號書式)及軍醫若ハ醫師ノ診

斷書(第四號書式)ヲ職務長官ヲ經テ

治安部大臣ニ提出シ受療許可證(第五號書式)ノ交付ヲ受クベシ

瓦長期ノ更ニ受療許可證ヲ受ク

必要アル場合ハ受療許可證再下付願

(第六號書式)ヲ職務長官ヲ經テ治安

部大臣ニ提出シ其ノ再交付ヲ受クベシ

職務長官前二項及第十條ニ規定スル書

類ヲ受ケタルトキハ之ニ申請書(第七號書式)ヲ添附シ治安部大臣ニ具申ス

ベシ

第十四條 傷病者治安部病院以外ニ於テ

第六條第一號乃至第四號ニ掲グル醫療

ヲ受ケタルトキハ其ノ都度前條ノ受療

之蓋章由本人保存之

第十五條 於指定醫受醫療者因傷病之治癒或其他事由已無醫療之必要時須由本人或其遺族從速將前條受療許可證經職務長官向治安部大臣返還之

第十六條 指定醫依本規則診療時須由該醫師所屬醫療機關之長作成公傷病療養給付明細表（第八號書式）及公傷病療養給付計算書（第九號書式）於次月十日以前將上月份經該受療者之職務長官向治安部大臣提出之

第十七條 傷病者或應領療養費者欲受第十一條第一款及第二款所規定之療養費時須於療養費請求書（第十號書式）外添附左記書類經職務長官向治安部大臣提出之但在已受治安部病院之醫療者無須添附第一款及第二款之書類、在已受

一 受療許可證  
二 關於屬於醫師職務之費用則為記明其傷病名、療養之內容、療養費、療養開始年月日及受療日數等之醫師請求書或領收證（如有第九號書式備考所載之事項時須明瞭記載之）或其他關於醫療之證憑書類

三 關於不屬於醫師職務之費用則為其請求書、領收證或足以證明之書類或

#### 其他證憑書類

四 印鑑證明書（傷病者於請求之際已使用指紋時則省略之）  
對於須瓦長期之療養者得於每月末為療養費之請求

有前項之情形時須以第一項第一款受療許可證之抄件代替之

第十八條 傷病者入院於第七條所規定相當級以上之等級時或就第九條所規定之醫療機關之醫師受醫療時須將說明其理由之證憑書類、受第十條所規定之療養時須將其認可書之抄件於提出前二條所定之書類時添附之

第十九條 對於療養上所需費用之金額由治安部大臣決定並對於正當受領者辦理發給之手續

#### 附 則

第二十條 本規則自軍給與令施行之日起

第十九條 對於療養上所需費用之金額由治安部大臣決定並對於正當受領者辦理發給之手續

#### 附 則

第二十一條 凡軍人及軍屬於本規則施行前因公受傷痍或罹疾病者基因該傷痍疾

病之再發或誘發致需療養時均適用本規則

於本規則施行前因公務受傷痍或罹疾病而療養者其所需之費用尚未受支給者亦與前項同

第十五條 指定醫ニ於テ醫療ヲ受ケタル者傷病ノ治癒其ノ他ノ事由ニ因リ醫療ノ要ナキニ至リタルトキハ本人又ハ其遺族ハ前條ノ受療許可證ヲ速ニ職務長官ヲ經テ治安部大臣ニ返納スベシ  
第十六條 指定醫本規則ニ依リ診療シタノ長ハ公傷病療養給付明細表（第八號書式）及公傷病療養給付計算書（第九號書式）ヲ作成シ翌月十日迄ニ前月分ノ長該受療者ノ職務長官ヲ經テ治安部大臣ヲ當該受療者ノ職務長官ヲ經テ治安部大臣ニ提出スベシ  
第十七條 傷病者又ハ療養費ヲ受クベキ者第十一條第一號及第二號ニ規定スル療養費ヲ受ケントスルトキハ療養費請求書（第十號書式）ニ左ノ書類ヲ添附シ職務長官ヲ經テ治安部大臣ニ提出スルベシ但シ治安部病院ノ醫療ニ依リタルモノニ在リテハ第一號及第二號ノ書類ノ添附ヲ要セズ  
第十八條 傷病者第七條ニ規定スル級以上ノ等級ニ入院シタルトキ又ハ第十九條ニ規定スル醫療機關ノ醫師ニ就キ治療ヲ受ケタルトキハ其ノ理由ヲ明ニシタル證憑書類ヲ、第十條ニ規定スル治療ヲ受ケタルトキハ其ノ認可書ノ寫ヲ前二條所定ノ書類提出ノ際之ヲ添附スベシ

第十九條 治安部大臣ハ療養ニ要シタル費用ニ對スル金額ヲ決定シ正當受領者ニ對シ支拂ノ手續ヲ爲スモノトス  
第二十條 本規則ハ軍給與令施行ノ日より之ヲ施行ス  
第二十一條 軍人及軍屬ニシテ本規則施行前公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者該傷痍疾病ノ再發若ハ誘發ニ因リ療養ヲ要スルニ至リタルトキハ總テ本規則ヲ適用ス

第二十一條 軍人及軍屬ニシテ本規則施行前公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者該傷痍疾病ノ再發若ハ誘發ニ因リ療養ヲ要スルニ至リタルトキハ總テ本規則ヲ適用ス  
本規則施行前公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ爲シタル者ニシテ未ダ之ニ要セシ費用ノ支給ヲ受ケザル者ハ其ノ請求書、領收書若ハ之ヲ立證

第十五條 指定醫ニ於テ醫療ヲ受ケタル者傷病ノ治癒其ノ他ノ事由ニ因リ醫療ノ要ナキニ至リタルトキハ本人又ハ其遺族ハ前條ノ受療許可證ヲ速ニ職務長官ヲ經テ治安部大臣ニ返納スベシ  
第十六條 指定醫本規則ニ依リ診療シタノ長ハ公傷病療養給付明細表（第八號書式）及公傷病療養給付計算書（第九號書式）ヲ作成シ翌月十日迄ニ前月分ノ長該受療者ノ職務長官ヲ經テ治安部大臣ヲ當該受療者ノ職務長官ヲ經テ治安部大臣ニ提出スベシ  
第十七條 傷病者又ハ療養費ヲ受クベキ者第十一條第一號及第二號ニ規定スル療養費ヲ受ケントスルトキハ療養費請求書（第十號書式）ニ左ノ書類ヲ添附シ職務長官ヲ經テ治安部大臣ニ提出スルベシ但シ治安部病院ノ醫療ニ依リタルモノニ在リテハ第一號及第二號ノ書類ノ添附ヲ要セズ  
第十八條 傷病者第七條ニ規定スル級以上ノ等級ニ入院シタルトキ又ハ第十九條ニ規定スル醫療機關ノ醫師ニ就キ治療ヲ受ケタルトキハ其ノ認可書ノ寫ヲ前二條所定ノ書類提出ノ際之ヲ添附スベシ

第十九條 治安部大臣ハ療養ニ要シタル費用ニ對スル金額ヲ決定シ正當受領者ニ對シ支拂ノ手續ヲ爲スモノトス  
第二十條 本規則ハ軍給與令施行ノ日より之ヲ施行ス  
第二十一條 軍人及軍屬ニシテ本規則施行前公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者該傷痍疾病ノ再發若ハ誘發ニ因リ療養ヲ要スルニ至リタルトキハ總テ本規則ヲ適用ス

本規則施行前公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ爲シタル者ニシテ未ダ之ニ要セシ費用ノ支給ヲ受ケザル者ハ其ノ請求書、領收書若ハ之ヲ立證

第一號書式

受療許可證請領書

呈爲請發給受療許可證事竊因公務傷病自 年 月 日起擬於 醫院受療

理合附具必要文件謹請

核准發給受療許可證實感

德便謹呈

治安部大臣 鈞鑒

官職名 現住所

名(印)

年 月 日

第二號書式

現認證明書

爲具證明事茲證明(官職名姓名)實於 年 月 日上(下)午 時

在(某地)辦理(某事)中因(某某)於某種情形之下受傷(致疾)所具證明是實

右者 年 月 日午前(後) 時 地ニ於テ(何)ニ從事中(何)  
ニ因リ(何)ノ事情ノ下ニ負傷(罹病)シタルコトヲ現認ス

住所又ハ官職名

現認者

氏

年 月 日

名(印)

第一號書式

受療許可證下付願

公務ニ因ル傷病ノ爲 年 月 日ヨリ

許可證ヲ下付相成度必要書類相添ヘ申請ス

醫院ニ於テ受療致度ニ付受療

私儀

官職名 現住所

名(印)

年 月 日

治安部大臣 殿

第二號書式

現認證明書

官職名 氏 名

年 月 日午前(後) 時

地ニ於テ(何)ニ從事中(何)  
ニ因リ(何)ノ事情ノ下ニ負傷(罹病)シタルコトヲ現認ス

住所又ハ官職名

現認者

氏

年 月 日

名(印)

備考 本證明書須詳細記載傷病當時之狀況、現認者多數時則以二名以上連名記載之

## 第三號書式

## 事實證明書

爲眞證明事茲證明（官職名姓名）自年月日起即有（某種）症狀嗣後已施行（某種）之處置所具證明是（實）

年月日所屬長姓名

備考 本證明書須詳細記載公務傷病之原因事實

## 第四號書式

## 診斷書

所屬官職名	姓名年齡	受傷或發病年月日	初診年月日	傷（病）名	原因	傷（病）名	受傷又發病年月日	初診年月日	傷（病）名	原因	傷（病）名	受傷或發病年月日	初診年月日	傷（病）名	原因	傷（病）名	受傷或發病年月日	初診年月日	傷（病）名	原因	傷（病）名	受傷或發病年月日	初診年月日
既往症（既往主要之疾患）																							

如右診斷之

住 所  
病院名  
主治醫名

年月日

備考 一 附記欄內關於患者之療養及其他有應特記事項時須具體的記載之

二 診斷書內須添附醫師作成之患部概圖或像片

## 第三號書式

## 事實證明書

右者年月日ヨリ（何）ニ從事中年月日（何）ノ状況ニ於テ（何）ニ從事シ月日頃ヨリ（何）ノ症狀アルヲ訴ヘ爾後（何）ノ處置ヲ施シタリ右證明ス

年月日所屬長姓名

備考 本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スペシ

## 第四號書式

## 診斷書

所屬官職名	姓名年齡	受傷或發病年月日	初診年月日	傷（病）名	原因	傷（病）名	受傷又發病年月日	初診年月日	傷（病）名	原因	傷（病）名	受傷或發病年月日	初診年月日	傷（病）名	原因	傷（病）名	受傷或發病年月日	初診年月日	傷（病）名	原因	傷（病）名	受傷或發病年月日	初診年月日
既往症（既往主要之疾患）																							

右ノ通診斷ス

住 所  
病院名  
主治醫名

年月日

備考 一 附記欄ニハ患者ノ療養其ノ他ニ付特記スペキ事項アルトキ之ヲ具體的ニ記載スペシ

二 診斷書ニハ醫師ノ作成セル患部見取圖或ハ寫真ヲ添附スペシ

第三種郵便物認可

第五號書式

(裏面)

月 日	醫師蓋印	月 日	醫師蓋印	月 日	醫師蓋印
月 1 日		22 日		12 日	
2 日		23 日		13 日	
3 日		24 日		14 日	
4 日		25 日		15 日	
5 日		26 日		16 日	
6 日		27 日		17 日	
7 日		28 日		18 日	
8 日		29 日		19 日	
9 日		30 日		20 日	
10 日		31 日		21 日	
11 日		月 1 日		22 日	
12 日		2 日		23 日	
13 日		3 日		24 日	
14 日		4 日		25 日	
15 日		5 日		26 日	
16 日		6 日		27 日	
17 日		7 日		28 日	
18 日		8 日		29 日	
19 日		9 日		30 日	
20 日		10 日		31 日	
21 日		11 日			

第五號書式

(表面)

受療許可證

治軍認(療)第  
年 月 日 號

所屬部隊

官職名

姓 名

生年月日

受療機關

受療開始

年 月 日

年 月 日 交付

治安部大臣

第五號書式

(裏面)

月 日	醫師認印	月 日	醫師認印	月 日	醫師認印
月 1 日		22 日		12 日	
2 日		23 日		13 日	
3 日		24 日		14 日	
4 日		25 日		15 日	
5 日		26 日		16 日	
6 日		27 日		17 日	
7 日		28 日		18 日	
8 日		29 日		19 日	
9 日		30 日		20 日	
10 日		31 日		21 日	
11 日		月 1 日		22 日	
12 日		2 日		23 日	
13 日		3 日		24 日	
14 日		4 日		25 日	
15 日		5 日		26 日	
16 日		6 日		27 日	
17 日		7 日		28 日	
18 日		8 日		29 日	
19 日		9 日		30 日	
20 日		10 日		31 日	
21 日		11 日			

第五號樣式

(表面)

受療許可證

治軍認(療)第  
年 月 日 號

所屬部隊

官職名

姓 名

生年月日

受療機關

受療開始

年 月 日

年 月 日 交付

治安部大臣

第六號畫

受療許可證再請領書

呈為再請發給受療許可證事據  
年 月 日 (治軍認療第 號) 旨

年 月 日起施行。醫院受病尚未治療，接觸經受病且合乎事必要之  
件銀請

德國譯書

現官職名  
住所

第七號書式

爲呈請公傷病  
醫療養護地隔溫

年月日 職務長官名

治安部大臣 鈞鑑

計開

姓名官職名所屬部隊

**備考** 不符合事項應抹消之

第六號書式

受療許可再下付願

年月日交付受療許可證（治軍認療第號）ニ依リ  
年月日ヨリ、  
醫院ニ於テ受療中ノ處未ダ治療ニ至ラズ之ガ受療繼續致  
度ニ付受療許可證ヲ再下付相成度必要書類相添ヘ申請ス

# 現住所

日 田

第七號書式

公傷病  
醫隔地醫療  
溫泉療養  
認可ノ件申請

職務長官名  
月 日

治安部大臣 謹啓  
左記ノ者ニ對スル首

四

所屬部隊

備考　該當セザル事項ハ抹消スペシ

第三種郵便物記可

第八號書式

年 月分公傷病療養給付明細表

院長

官職名

姓名

年齡

歲

年

月

日初診

日期	傷病名	入院	手術	處置	藥容	劑器	隨看護婦	侍婦	被貸	禱與	藥方	各機	種查	齒技	科工	往診	其他	記事
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
28																		
29																		
30																		
31																		
計	人數																	
	金額																	

合計

第八號書式

年 月分公傷病療養給付明細表

院長

官職名

氏名

年齡

歲

年 月

日初診

日附	傷病名	入院	手術	處置	藥容	劑器	附看護婦	添	同夜具貸	付	處方箋	各機	種查	齒技	科工	往診	其他	記事
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
28																		
29																		
30																		
31																		
計	員數																	
	金額																	

合計

## 第九號書式

## 年月分公傷病療養給付計算書

種別	數量	金額	記事
入院費			
手術費			
處置費			
藥價			
藥劑容器費			
隨侍看護婦費			
被褥貸與費			
各種檢查費			
齒科技工費			
往診費			
其他			
金額計			

- 七、繼續治療中認爲有行隔地療養之必要時記載其事由  
 六、對於其他療法與以指示或贊同時記載其事由  
 五、爲通院有乘車之必要時記載其事由  
 四、有攝取滋養物之必要時記載其事由  
 三、有往診之必要時記載其事由  
 或需二等以上之看護婦之必要時記載其事由  
 二、有入院於軍人、軍屬公傷病療養規則第七條所規定之等級以上  
 一、有入院及需看護婦侍者之必要時記載其事由  
 於記事欄內記載右記事項

## 備考

上記金額依軍人軍屬公傷病療養規則懇祈發給爲荷

治安部大臣 鈞鑒 院長

印

## 第九號書式

## 年月分公傷病療養給付計算書

種別	數量	金額	記事
入院料			
手術料			
處置料			
藥價			
藥劑容器料			
附添看護婦料			
同夜具貸付料			
各種檢查料			
齒科技工料			
往診料			
其他			
金額計			

- 七、治療繼續中更ニ隔地ニ至リ療養ヲ爲ス必要ヲ認メタルトキハ其ノ事由  
 六、他ノ療法ヲ指示若ハ之ニ同意シタルトキハ其ノ理由  
 五、通院ニ乗車ヲ必要トシタルトキハ其ノ事由  
 四、滋養物攝取ヲ必要トシタルトキハ其ノ事由  
 三、往診ヲ必要トシタルトキハ其ノ事由  
 看護婦ヲ必要トシタルトキハ其ノ事由  
 二、軍人、軍屬公傷病療養規則第七條ニ規定スル等級以上ノ入院又ハ二等以上ノ  
 一、入院及看護婦、附添人ヲ必要トシタルトキハ其ノ事由  
 於記事欄ニハ右ノ事項ヲ記載スルコト  
 記事欄ニハ右ノ事項ヲ記載スルコト

## 備考

上記金額軍人軍屬公傷病療養規則ニ依リ支拂相成度

治安部大臣 殿 院長

印

第十號書式

## 療養費請求書

呈爲請發療養費事，因公傷病自 年 月 日起至 年 月 日止

業經療養理合附具必要文件，謹請

核准發給療養費（ 圓 角 分）寶感

德便謹呈

治安部大臣 鈎鑑

官職名

姓

名（印）

年 月 日

現住所 氏 名（印）

年 月 日

治安部大臣 殿

## 產業部令第五十一號

茲將康德五年產業部令第二十號鐵鋼類統制法之鐵鋼類中品種指定之件中修正如左

康德六年十二月二十日 興安南省長 壽明阿

## 看護婦規則施行細則

第一條 依看護婦規則（以下簡稱規則）

第四條規定之呈請書須依另記第一號樣式附具左列各款之書類及像片

一 第一款第一項添加「釘、線及鑄鐵品、中鑄鐵直管」  
 二 第一款第二項刪除之  
 三 第二款刪除之

附則  
 本令自公布日施行

興安南省令第二十八號  
 茲將看護婦規則施行細則制定如左

第十號書式

## 療養費請求書

公務ニ因ル傷病ノ爲 年 月 日ヨリ 年 月 日迄療養致シタ

ルニ付療養費（ 圓 角 分）ヲ給與相成度必要書類相添ヘ請求ス

私儀

現住所 氏 名（印）

年 月 日

治安部大臣 殿

## 產業部令第五十一號

茲ニ康德五年產業部令第二十號鐵鋼類統制法ノ鐵鋼類中品種指定ノ件中左ノ通改正ス

康德六年十二月二十日 興安南省長 壽明阿

## 看護婦規則施行細則

第一條 看護婦規則（以下單ニ規則ト稱ス）第四條ノ規定ニ依ル申請書ハ別記第一號様式ニ依リ左ノ各號ノ書類及寫真ヲ添附スベシ

一 第一號第一項ニ「釘、線及鑄鐵品、中鑄鐵直管」ヲ加フ

二 第二號第二項ヲ削ル

三 第二號ヲ削ル

附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

興安南省令第二十八號  
 茲ニ看護婦規則施行細則ヲ左ノ通制定ス

五一八

第三條 依規則第四條第二項規定之看護婦認許證如另記第二號樣式  
 提出之像片須爲三箇月以內撮照之半身脫帽名刺  
 第二條 依規則第四條第二項ノ規定ニ依ル  
 看護婦認許證ハ別記第二號樣式トス  
 第三條 規則第八條及第九條ノ規定ニ依リ提出スル寫眞ハ三月以內ニ撮影セル

脫帽名片型像片附具一張

第四條 依規則第九條規定之呈請書須依另記第三號及第四號樣式

第五條 開始看護婦業務時或於省內移轉住所或業務之場所時須於十日以內呈報該管旗縣長但因移轉致該管旗縣變更時須呈報省長

第六條 擬爲派出看護婦者須規定其價額受該管警察官署長之認可

第七條 看護婦罹傳染性疾病時迄至全癒前不得從事其事務

第八條 該管警察官署長如認爲看護婦有罹傳染性疾病之疑時得使主治醫師提出診斷書或使其受指定醫師之診斷

第九條 看護婦須遵守左列各款

- 一 無正當理由不得拒絕看護婦之需求
- 二 於業務上所知得之他人之祕密不得無故洩漏
- 三 不得要求受認可價額以外之金品
- 四 從業中須穿清潔之白衣
- 五 其他警察官署所指示之事項

第十條 依規則第十二條規定之手續費須繳納同額之小匯兌或現金

第十一條 擬組織經營看護婦會者須依另記第五號樣式檢同左列各款之書類及像片一張呈交省長之認可擬行廢止或變更時須呈報其理由但非看護婦不得組織看護婦會

第十二條 看護婦會經營者遇有入會員或退會員時須於十日以內呈報該管警察官署長

第十三條 省長認爲有必要時得命其變更看護婦會之會則

第十四條 看護婦養成所（以下簡稱養成所）之經營者依規則第二條第一款之規定而受指定者應附具左列各款呈請省長

第十五條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第十六條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第十七條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第十八條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第十九條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十一條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十二條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十三條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十四條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十五條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十六條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十七條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十八條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十九條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第三十條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第三十一條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

半身脫帽名刺型トシ一葉ヲ添附スベシ

第四條 規則第九條ノ規定ニ依ル申請書ハ別記第三號及第四號樣式ニ依ルベシ

第五條 看護婦業務ヲ開始シタルトキ又ハ省内ニ於テ住所若ハ業務ノ場所ヲ移

ニ届出ヅベシ但シ移轉ニ因リ所轄旗縣ヲ異ニシタルトキハ省長ニ届出ヅベシ

第六條 派出看護婦タラントスル者ハ其ノ料金額ヲ定メ所轄警察官署長ノ認可ヲ受クベシ

第七條 看護婦傳染性疾病患ニ罹リタルトキハ全癒ニ至ルマデ其ノ業務ニ從事スルコトヲ得ズ

第八條 所轄警察官署長ハ看護婦傳染性疾病患ニ罹リタル疑アリト認ムルトキハ主治醫師ニ診斷書ヲ提出セシメ若ハ醫師ヲ指定シテ之ガ診斷ヲ受ケシムルコトヲ得

第九條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

一 正當ノ事由ナクシテ看護婦ノ需メヲ拒マザルコト

二 故ナク業務上知得シタル他人ノ祕密ヲ漏洩セザルコト

三 認可ヲ受ケタル料金以外ノ金品ヲ請求セザルコト

四 從業中ハ清潔ナル白衣ヲ著用スル

五 其ノ他警察官署ニ於テ指示シタル事項

第六條 看護婦會ノ會則ニ變更ヲ命ズルコトアラベシ

第七條 省長必要アリト認ムルトキハ看護婦會ノ會則ニ變更ヲ命ズルコトアラベシ

第八條 看護婦養成所（以下單ニ養成所ト稱ス）ノ經營者ニシテ規則第二條第一號ノ規定ニ依ル指定ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ省長ニ願出ヅベシ

第九條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

一 經營者之原籍、住所、職業、姓名及生年月日（在法人時其名稱、事務所在地、代表者之住所、姓名及定款之抄件）

二 名稱

三 設立場所

四 設立年月日

第十一條 看護婦會ヲ組織經營セントスル者ハ別記第五號樣式ニ依リ左ノ各號

ノ書類及寫真一葉ヲ添ヘ省長ノ認可ヲ受クベシ之ヲ廢止若ハ變更セントスルトキハ其ノ旨届出ヅベシ但シ看護婦ニ非ザレバ看護婦會ヲ組織スルコトヲ得ズ

第十二條 看護婦會經營者ハ入會員又ハ脱會員アリタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署長ニ届出ヅベシ

第十三條 省長必要アリト認ムルトキハ看護婦會ノ會則ニ變更ヲ命ズルコトアラベシ

第十四條 看護婦養成所（以下單ニ養成所ト稱ス）ノ經營者ニシテ規則第二條第一號ノ規定ニ依ル指定ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ省長ニ願出ヅベシ

第十五條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第十六條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第十七條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第十八條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第十九條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十一條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十二條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十三條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十四條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十五條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十六條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十七條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十八條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第二十九條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

第三十條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ

五 學則  
六 經營者及醫師履歷書並擔當科目

畢業者或女子國民高等學校二年以上課程修業者或有同等以上之學力者

五 學則  
六 經營者及醫師ノ履歷書並ニ擔當科

業者若ハ女子國民高等學校二年以上ノ課程ヲ修業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノナルコト

七 學生之定員

八 校舍之構造、授業用器具、器械及標本之目錄並充當實習用之病院及其他施設

九 有寄宿舍之設備者其設置場所、構造、設備及收容定員

十 地基及建築物之平面圖

十一 管理及維持之方法

第十五條 已受指定之養成所經營者須將左列事項隨時於十日以內呈報省長

一 入學者之姓名及生年月日

二 畢業試驗之日時及成績表

三 畢業者之姓名、生年月日及成績表

四 中途退學者之姓名及事由

五 授業之休止或經營之廢止

六 講師之異動(雇入時須添附履歷書)

三 修業年限計合學說實地須為二年以

上

四 必要科目須授以修身、國語、食餌法、人體之構造及重要器官之機能、看護方法、衛生及傳染病之大意、消毒法、繩帶術、治療器械處理方法及

看護方法、衛生及傳染病ノ大意、消毒法、人體ノ構造及重要器官ノ機能、

看護方法、衛生及傳染病ノ大意、消毒法、繩帶術、治療器械處理方法及

七 生徒ノ定員

八 校舍ノ構造、授業用器具、器械及標本ノ目錄並ニ實習ニ充當スベキ病院其ノ他ノ施設

九 寄宿舍ノ設備アル者ハ其ノ設置場所、構造、設備及收容定員

十 敷地及建物ノ平面圖

十一 管理及維持ノ方法

第十五條 指定ヲ受ケタル養成所ノ經營者ハ左々事項ヲ其ノ都度十日以内ニ省長ニ届出ヅベシ

一 入學者ノ氏名及生年月日

二 畢業試驗ノ日時及場所

三 畢業者ノ氏名、生年月日及成績表

四 中途退學者ノ氏名及事由

五 授業ノ休止又ハ經營ノ廢止

六 講師ノ異動(雇入ノ場合ハ履歷書添附)

第十六條 指定ヲ受ケタル養成所ハ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十七條 養成所ハ左ノ各號ニ該當シ管理維持ノ方法確實ニシテ成績良好ナリ定但關於第三款之年限依入學資格之程度畢業者之成績等得斟酌之

一 違反本令或基於本令所發之命令時

二 認爲有害公安或紊亂風俗之虞時

三 依前條之規定所施行之試問成績極不良時

四 認爲不適合第十七條之規定時

五 其他於經營上認爲不適當時

一 對於學生之定員須有適當之校舍、器械、器具及充當實習之病院及其他之設備

二 學生之入學資格須爲國民優級學校

三 修業年限ハ學說實地ヲ通ジテ二年以上ナルコト

四 必須科目トシテ修身、國語、食餌法、人體ノ構造及重要器官ノ機能、

看護方法、衛生及傳染病ノ大意、消毒法、繩帶術、治療器械取扱方法及

キ

第二十一條 依本令之呈請書類或呈報書  
類均須經由該管警察官署

第二十二條 違反第五條至第九條、第十  
一條、第十二條、第十五條及第十六條

之規定時處以拘留或科料

附則

本令自公布日施行

佈 告

產業部佈告第六二號

關於鐵鋼類統制法之鐵鋼類中品種

指定追加之件

爲佈告事查於康德六年十二月二十日產業  
部令第五十一號以將鐵鋼類統制法之鐵鋼

類中品種指定追加在案茲將追加之種類名  
稱列記於後俾周知此佈

康德六年十二月二十日

產業部大臣 呂 榮 寅

一 追加品種中之釘、線者係指左列者而  
言

洋釘、普通鐵絲、水引鐵絲、亞鉛引鐵  
絲、通信線、燒純鐵絲、有刺鐵絲、熔  
接線

二 追加種類中之特殊鋼者係指依鐵鋼類  
統制法所指定品種之形狀且其品質合於  
左列者而言

合金除鐵分外尚有以下之化學成分者  
以電氣爐、坩堝爐或酸性平爐製出之鐵

將（形式）中第三項第三號廢止之追加如

左

（二）炭素鋼

炭素含有量在千分之六至千分之十五  
其磷及硫黃之含有量各在一萬分之三  
以下者

（二）合金鋼

甲 硅素或錳含有量在千分之八以上  
若含有硅素及錳時其合計含有量在  
千分之十五以上者

乙 鐳、鉻、銅、鋁、鎢、鉬、鉻、鈦、  
鈷、鑽、鈷、硼素、錳鎔、或鈷含  
有量在千分之二以上若二元素以上  
混合時其合計含有量在千分之四以  
上者

乙 鐳、鉻、銅、鋁、鎢、鉬、鉻、鈦、  
鈷、鑽、鈷、硼素、錳鎔、或鈷含  
有量在千分之二以上若二元素以上  
混合時其合計含有量在千分之四以  
上者

產業部佈告第六二號

關於標語通信日織使用之件  
鐵鋼類統制法ノ鐵鋼類中品種指定

追加ノ件

康德六年十二月二十日附產業部令第五十  
一號ヲ以テ改正セラレタル鐵鋼類統制法  
ノ鐵鋼類中品種指定追加ニ關シ其ノ內容  
ヲ周知セシムベク茲ニ左ノ通之ヲ佈告ス

康德六年十二月二十日

產業部大臣 呂 榮 寅

一 追加品種中釘、線トハ次ノモノヲ謂  
記

洋丸釘、普通鐵線、水引鐵線、亞鉛  
引鐵線、通信線、ナマシ鐵線、有刺鐵  
線、熔接線

二 追加品種中特殊鋼トハ鐵鋼類統制法  
ニ基ク指定品種ニ屬スル形狀ニシテソ  
ノ品質左記ニ該當スルモノヲ謂フ

電氣爐、坩堝爐又ハ酸性平爐ニテ製出  
セル鐵合金ニシテ鐵ノ外次ノ化學成分

（形式）中第三項第三號廢止之追加如  
左記

第二十一條 本令ニ依ル申請書類又ハ届  
出書類ハ凡テ所轄警察官署ヲ經由スベ  
シ

第二十二條 第五條乃至第九條、第十  
一條、第十二條、第十五條及第十六條ノ  
規定ニ違反シタルトキハ拘留又ハ科料  
ニ處ス

（二）合金鋼

甲 硅素又ハ滿倦ノ含有量千分ノ八  
以上、硅素及滿倦ヲ含有スル場合  
ハ其ノ合計含有量千分ノ十五以上

乙 ニッケル、クローム、銅、アル  
ミニユーム、タンクスチン、モ  
リブテン、バナチウム、コバル  
ト、チタニウム、ジルコニウム、  
硼素、ベリリウム、ウラニウム、  
又ハタンタリウムノ含有量千分ノ  
二以上二元素以上共存ノ場合其ノ  
合計含有量千分ノ四以上

（二）合金鋼

甲 硅素又ハ滿倦ノ含有量千分ノ六  
乃至千分ノ十  
五ニシテ磷及硫黃ノ含有量各一萬分  
ノ三以下

乙 ニッケル、クローム、銅、アル  
ミニユーム、タンクスチン、モ  
リブテン、バナチウム、コバル  
ト、チタニウム、ジルコニウム、  
硼素、ベリリウム、ウラニウム、  
又ハタンタリウムノ含有量千分ノ  
二以上二元素以上共存ノ場合其ノ  
合計含有量千分ノ四以上

（二）合金鋼

甲 硅素又ハ滿倦ノ含有量千分ノ八  
以上、硅素及滿倦ヲ含有スル場合  
ハ其ノ合計含有量千分ノ十五以上

乙 ニッケル、クローム、銅、アル  
ミニユーム、タンクスチン、モ  
リブテン、バナチウム、コバル  
ト、チタニウム、ジルコニウム、  
硼素、ベリリウム、ウラニウム、  
又ハタンタリウムノ含有量千分ノ  
二以上二元素以上共存ノ場合其ノ  
合計含有量千分ノ四以上

（二）合金鋼

甲 硅素又ハ滿倦ノ含有量千分ノ八  
以上、硅素及滿倦ヲ含有スル場合  
ハ其ノ合計含有量千分ノ十五以上

乙 ニッケル、クローム、銅、アル  
ミニユーム、タンクスチン、モ  
リブテン、バナチウム、コバル  
ト、チタニウム、ジルコニウム、  
硼素、ベリリウム、ウラニウム、  
又ハタンタリウムノ含有量千分ノ  
二以上二元素以上共存ノ場合其ノ  
合計含有量千分ノ四以上

（二）合金鋼

甲 硅素又ハ滿倦ノ含有量千分ノ八  
以上、硅素及滿倦ヲ含有スル場合  
ハ其ノ合計含有量千分ノ十五以上

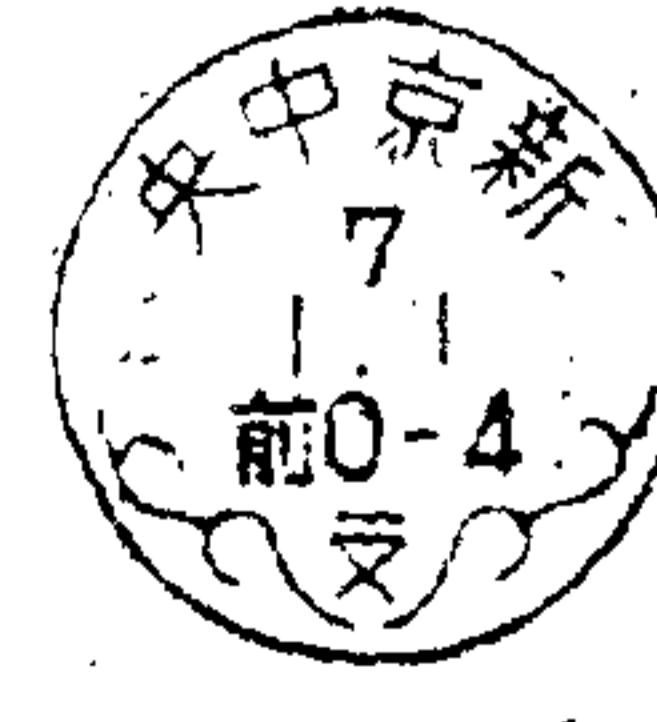
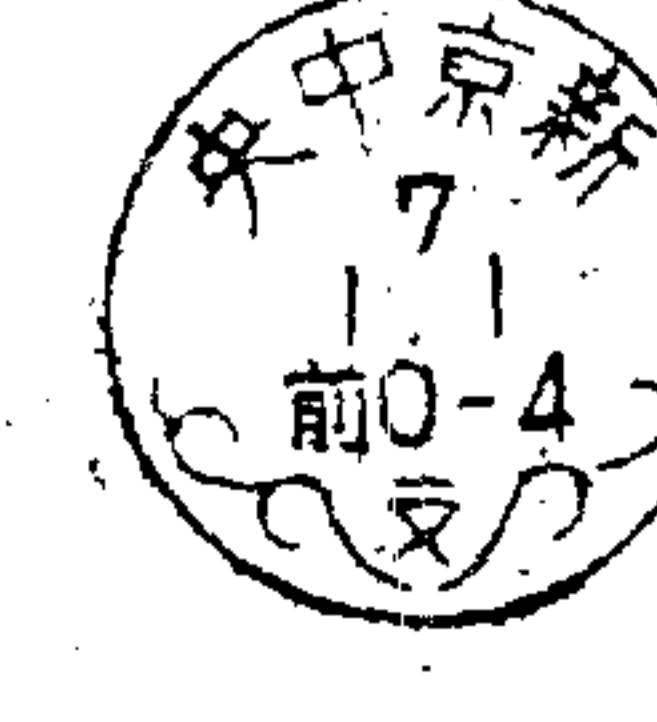
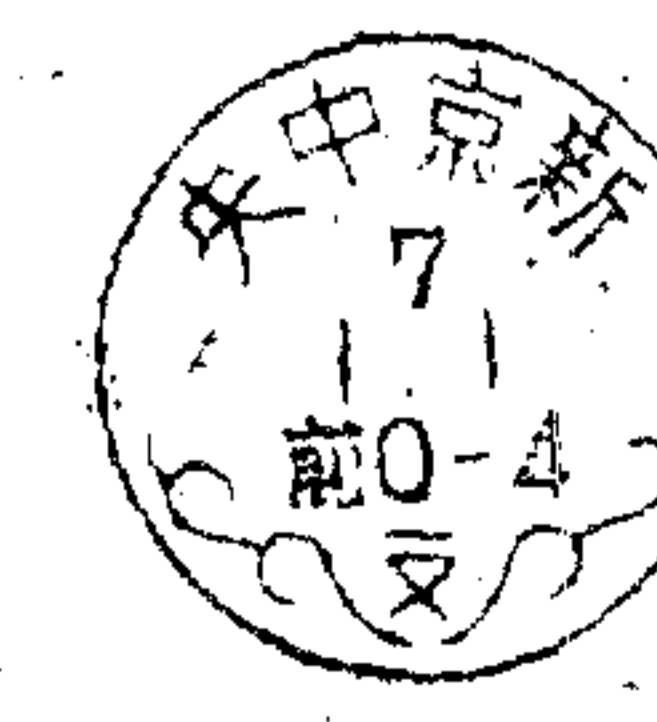
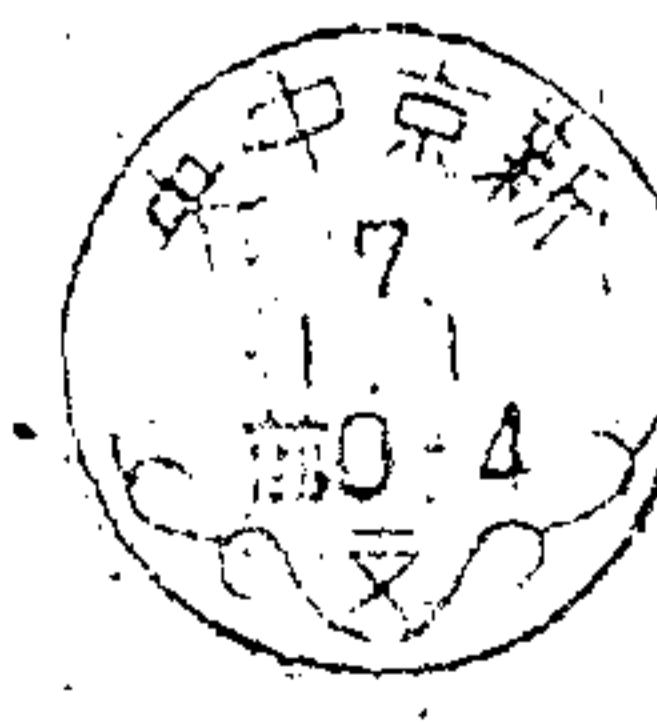
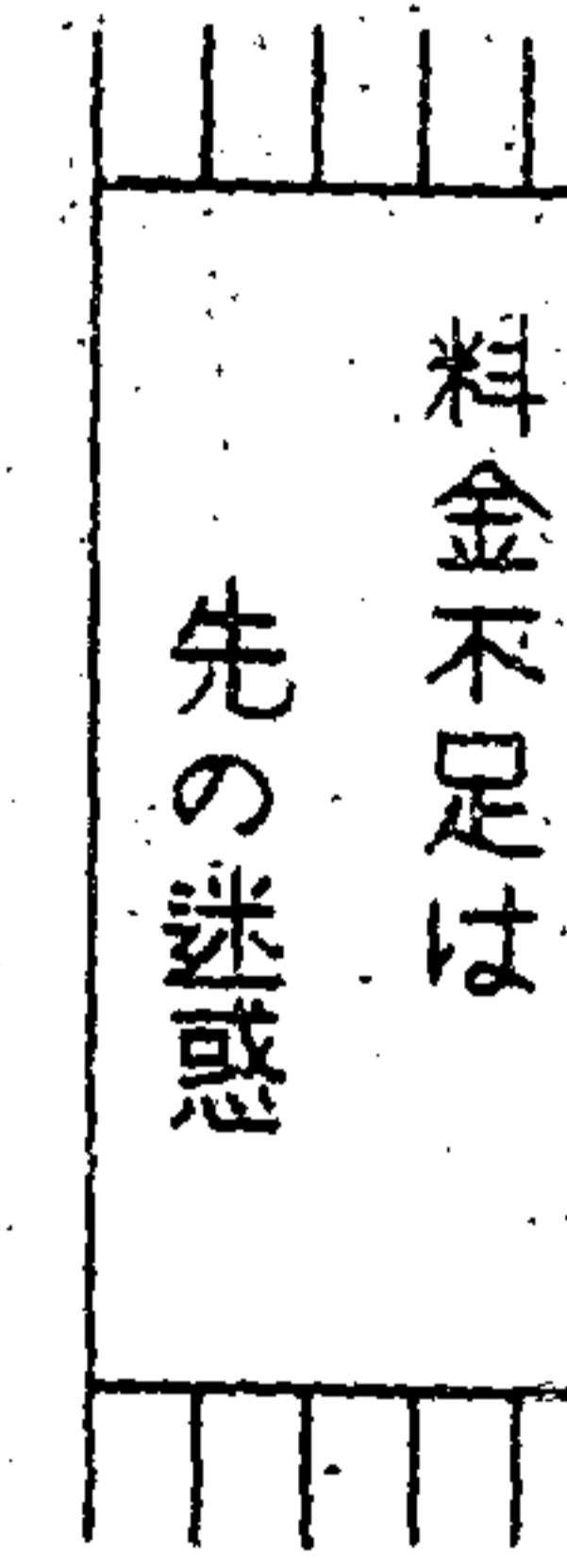
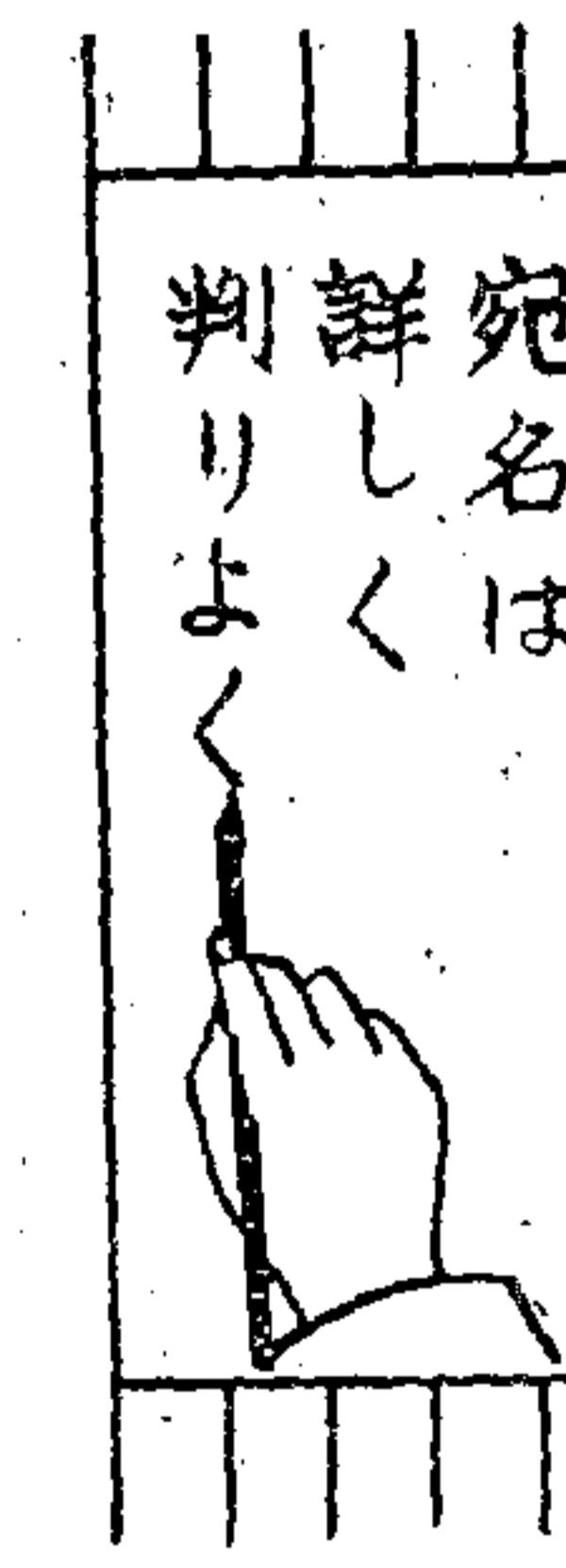
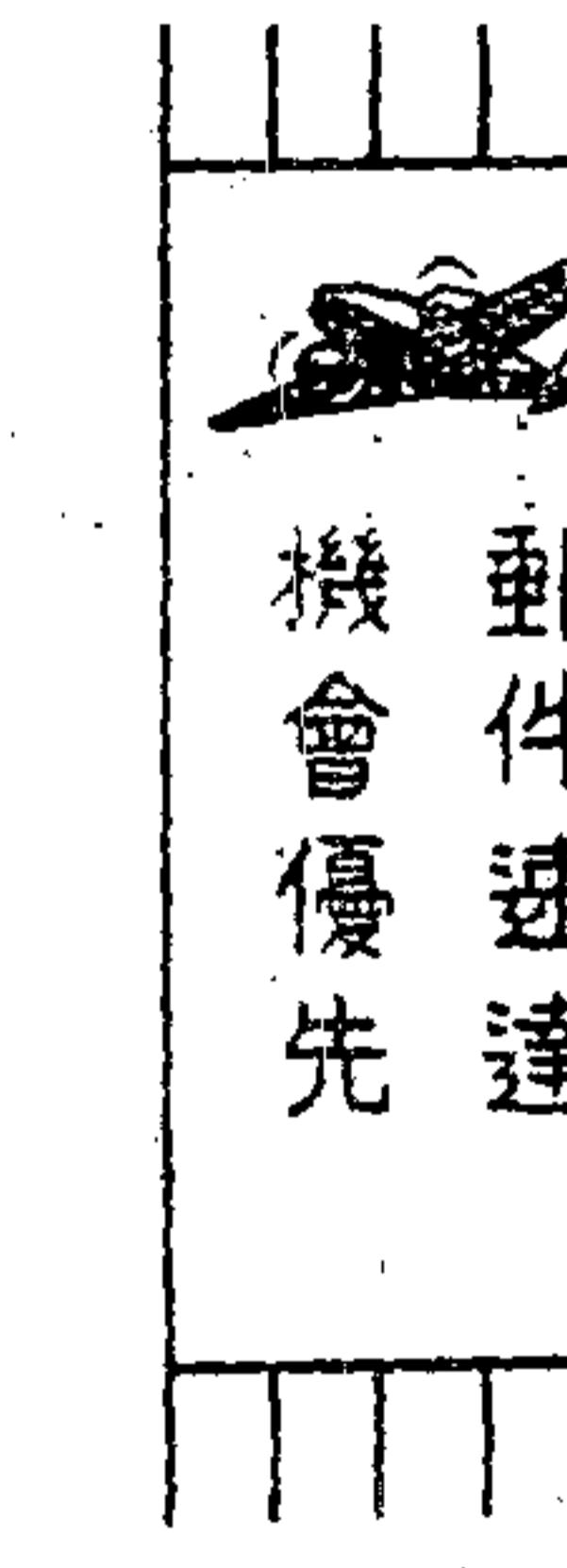
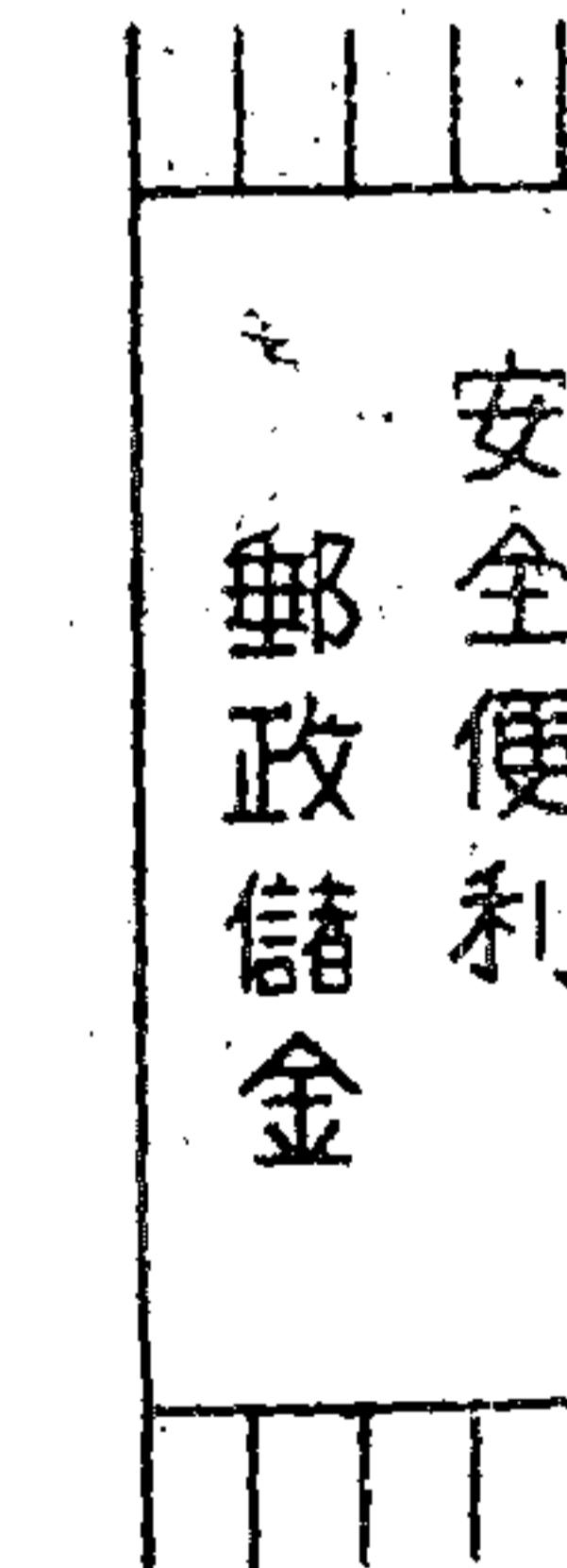
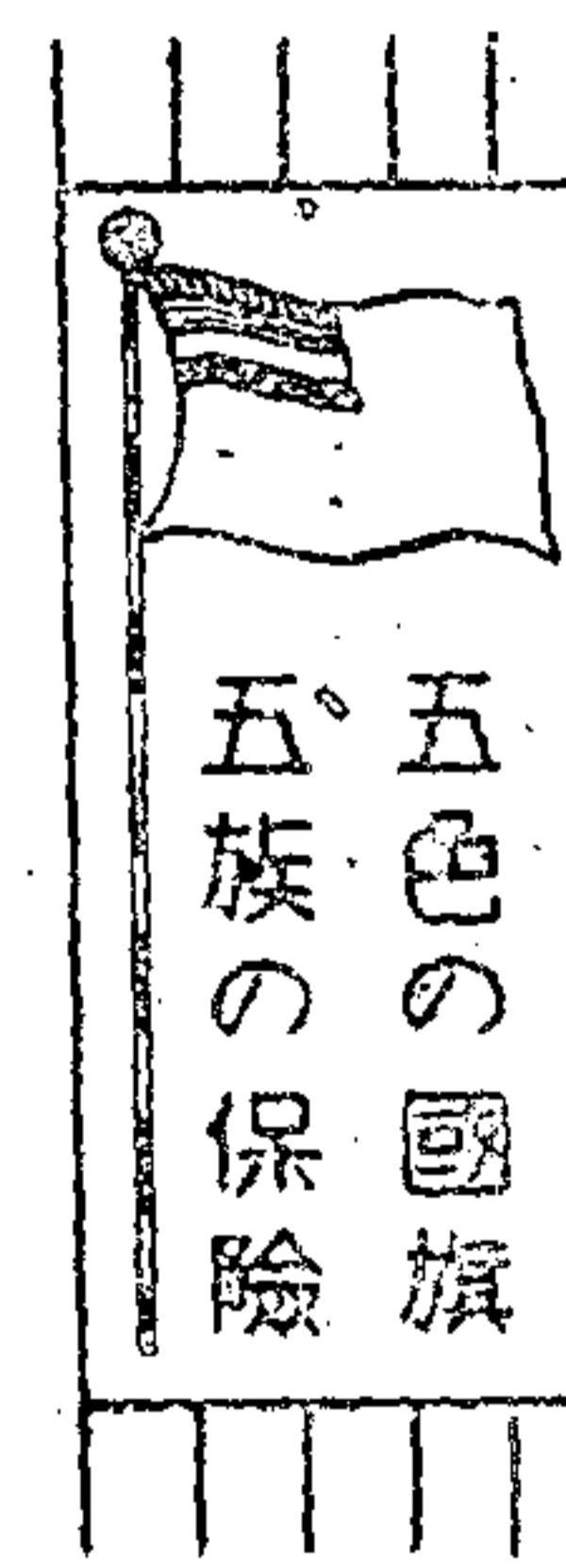
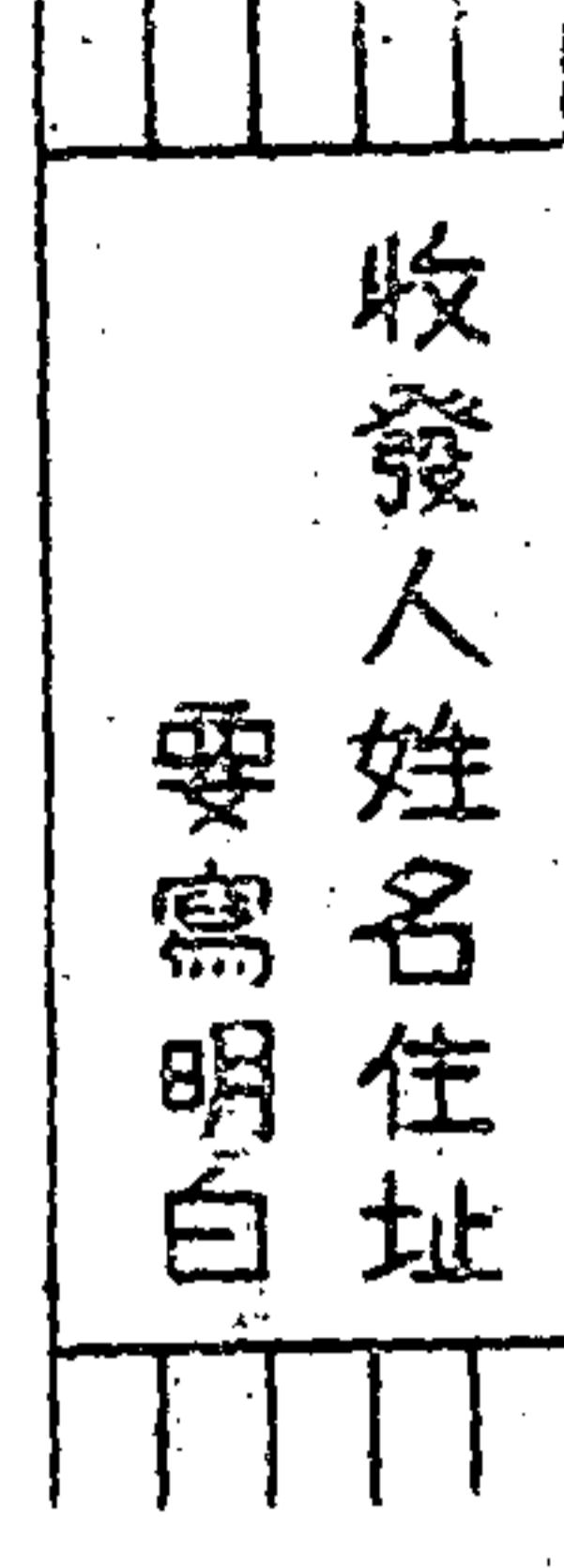
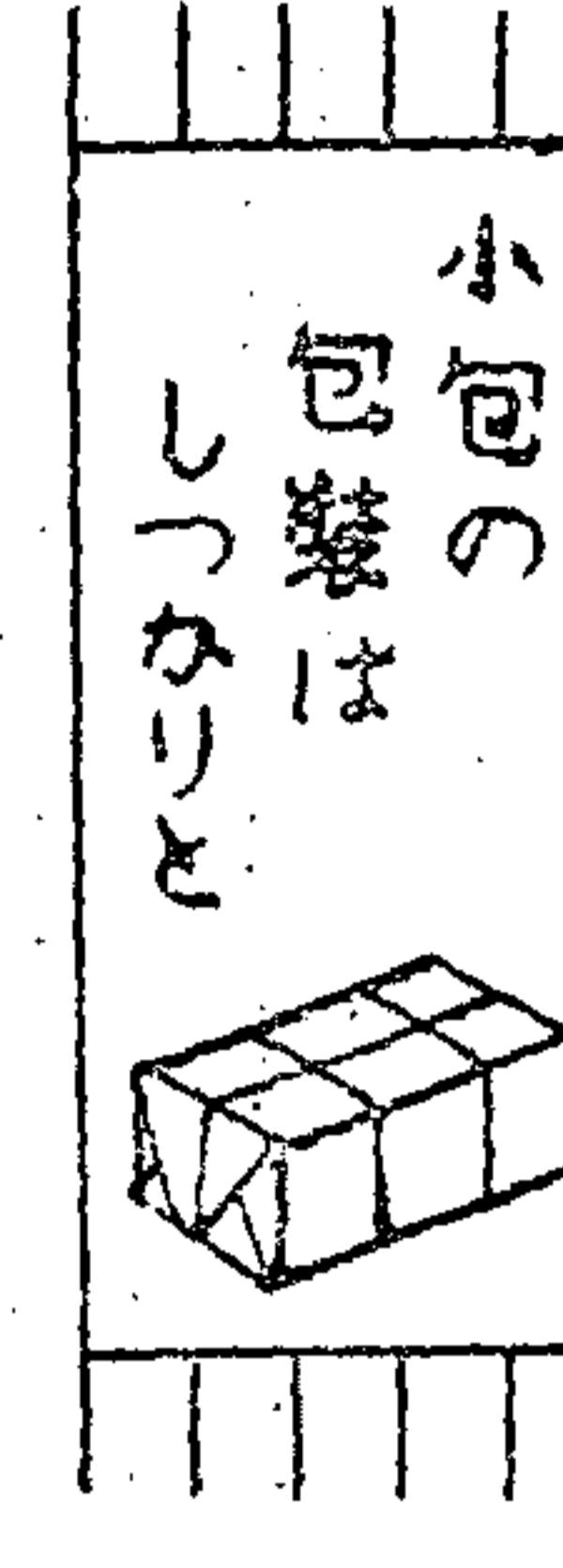
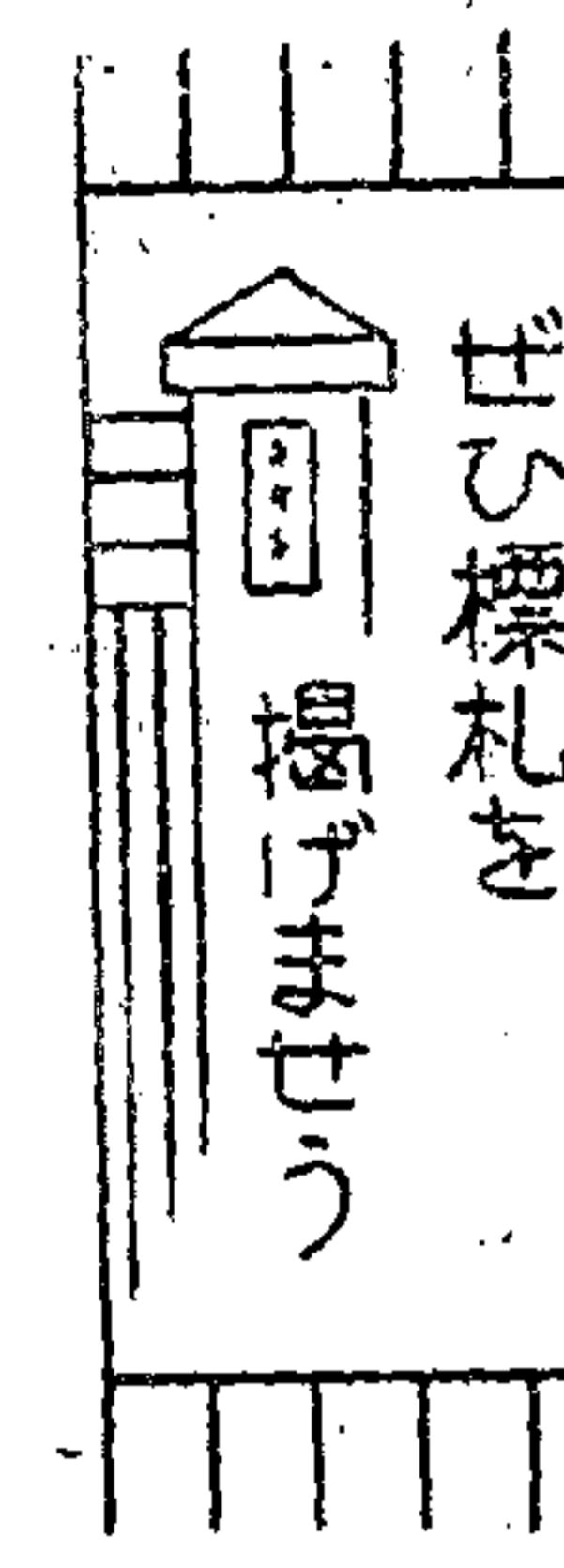
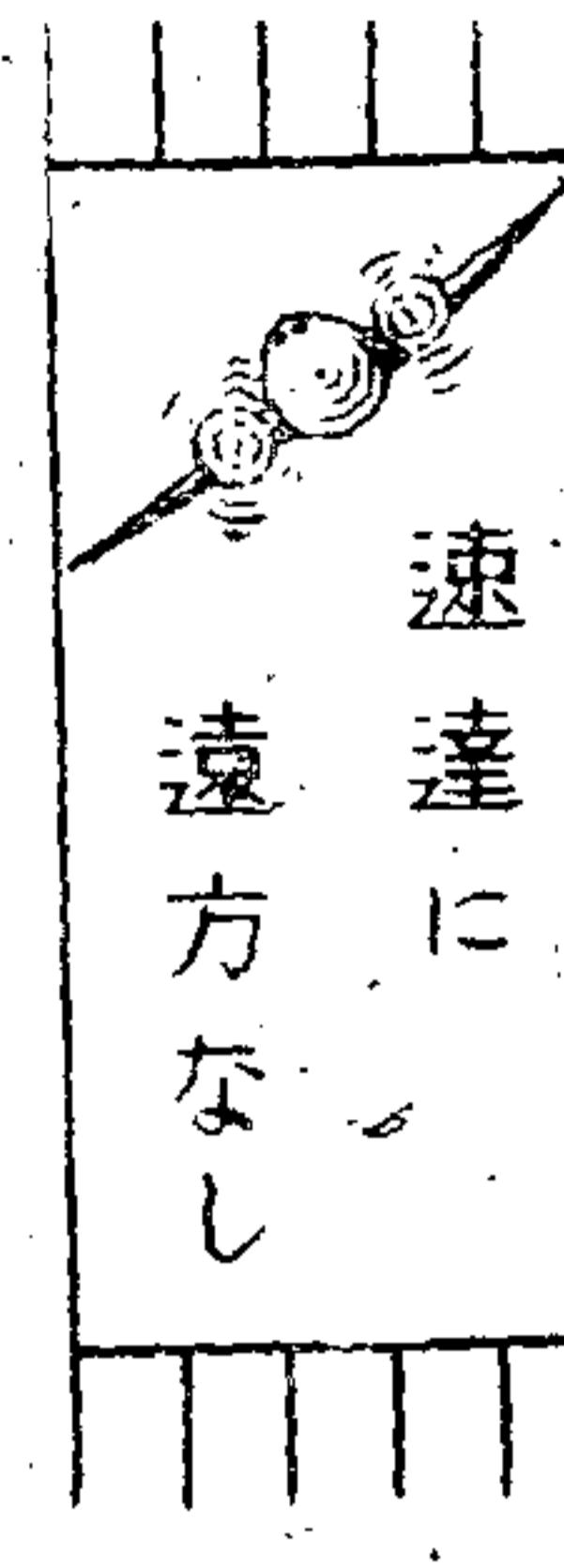
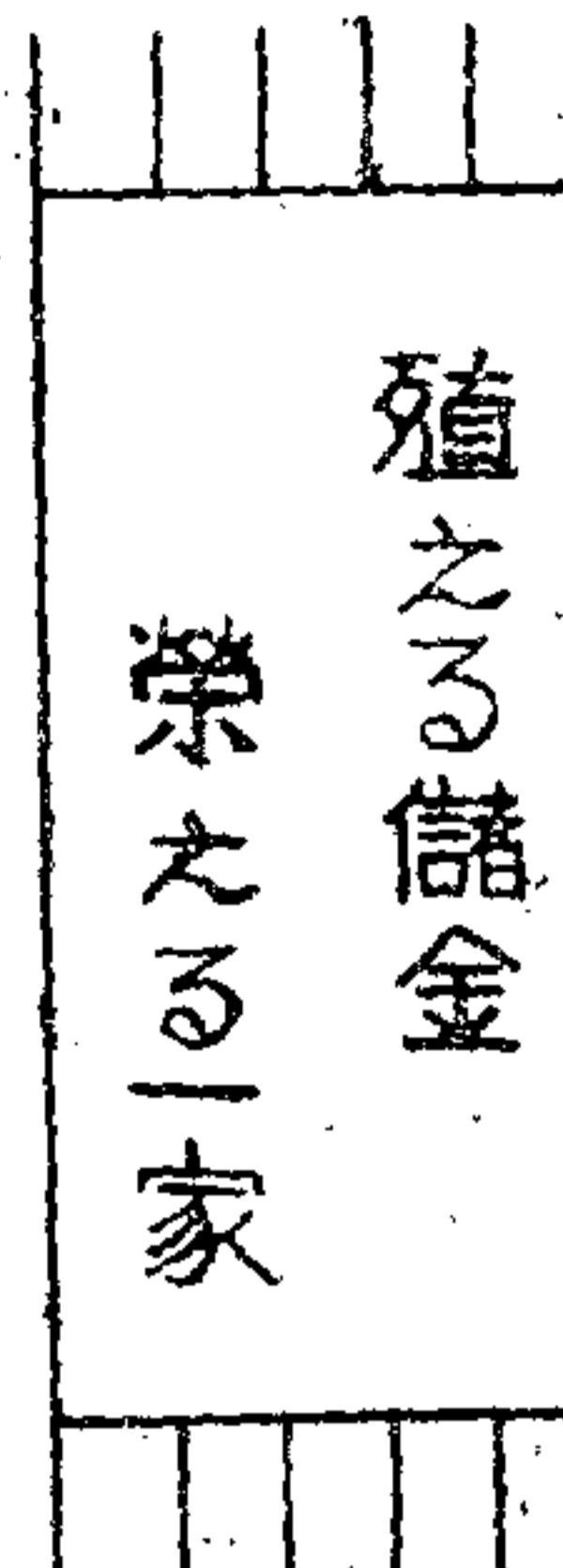
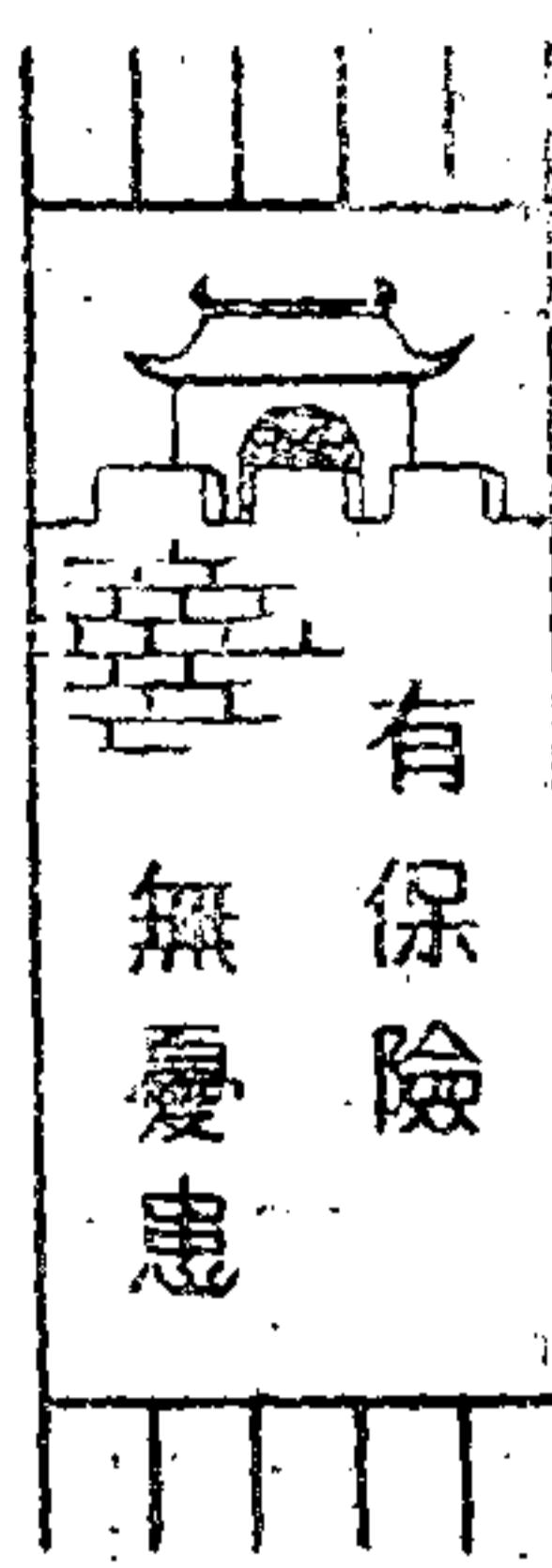
乙 ニッケル、クローム、銅、アル  
ミニユーム、タンクスチン、モ  
リブテン、バナチウム、コバル  
ト、チタニウム、ジルコニウム、  
硼素、ベリリウム、ウラニウム、  
又ハタンタリウムノ含有量千分ノ  
二以上二元素以上共存ノ場合其ノ  
合計含有量千分ノ四以上

（二）合金鋼

甲 硅素又ハ滿倦ノ含有量千分ノ八  
以上、硅素及滿倦ヲ含有スル場合  
ハ其ノ合計含有量千分ノ十五以上

イ 炭素鋼

炭素ノ含有量千分ノ六乃至千分ノ十  
五ニシテ磷及硫黃ノ含有量各一萬分  
ノ三以下



## 地籍整理局佈告第二五四號

關於土地所有權再審決之件

為佈告事查左開之土地權利於康德六年十二月十六日依土地審定法第十二條之規定已施行其權利者及範圍之再審決茲依同法

第九條第二項及同法施行令第二十三條第一項之規定公示如左仰卽詳覽再審決書可

再者審決如認為其權利有被侵害者對於該

審決自公示之日起六十日內得經由地籍整理局長向高等土地審定委員會聲請裁決於前記期間內不為聲請裁決時則審定標的之土地權利即屬確定嗣後對該土地應即適用不動產登錄法合行佈告周知此佈

康德六年十二月二十日

地籍整理局長 袁慶濂

計開

## 任免及指敘

鐵道警護本隊長 岩田文男

鐵道警護總隊參事官敍簡任二等 專賣總局理事官 上加世田成法

任稅務監督署副署長敍簡任二等 吉林省民生廳長敍簡任二等

大使館參事官 古木隆藏 鐵道警護本隊長 伊藤博

師道學校長 侯德錫 省實業廳長 錢魯民

龍江省民生廳長 單作善

任公立國民高等學校教諭 敘薦任三等 公立職業學校教諭 山内千秋

派充奉天鐵道警護本隊長 鐵道警護本隊長 派在總監部辦事

經濟部參事官 任公立國民高等學校教諭 敘薦任三等 公立國民高等學校教諭 山内千秋

## 一、公示期間 自康德六年十二月二十二日至康德七年一月二十日

土地所有權ノ再審決ニ關スル件

一、公示地址 地籍整理局錦縣支局  
墓地第五四號與旱田第五二號之疆界

## 一、公示期間 自康德六年十二月二十二日至康德七年一月二十日

地籍整理局佈告第二五四號

一、公示場所 地籍整理局錦縣支局  
墓地第五四號ト旱田第五二號トノ疆界

15

## 地籍整理局佈告第二五四號

土地所有權ノ再審決ニ關スル件

康德六年十二月十六日左記土地ノ所有權ニ付土地審定法第十二條ノ規定ニ依リ其ノ權利者及範圍ノ再審決ヲ為シタルヲ以テ同法第九條第二項及同法施行令第二十

三條第一項ノ規定ニ依リ左記ノ通再審決書ヲ閱覽セシム

尙審定ニ因リ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ右審決ニ對シ本公示ノ初日ヨリ起算シ六十日以内ニ地籍整理局長ヲ經テ高等土地審定委員會ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得若右期間内ニ裁決ノ申請ナキトキハ審定ノ目的タル土地ノ權利ハ確定シ爾後當該土地ニ付テハ不動產登錄法ヲ適用セラルベシ

者ハ右審決ニ對シ本公示ノ初日ヨリ起算シ六十日以内ニ地籍整理局長ヲ經テ高等土地審定委員會ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得若右期間内ニ裁決ノ申請ナキトキハ審定ノ目的タル土地ノ權利ハ確定シ爾後當該土地ニ付テハ不動產登錄法ヲ適用セラルベシ

康德六年九月郵政總局佈告第五八號鐵道郵路區域及管轄郵政管理局之件另表局、郵路區域及管轄郵政管理局之件另表哈爾濱郵政管理局之下牡丹江鐵路郵政局之郵路區域中「蓮江口興山鎮間」改爲「佳木斯興山鎮間」自康德六年十二月十六日施行之此佈

康德六年十二月二十日

地籍整理局長 孔世培

計開

任免及指敘

間島省警務廳長 裕岡 靜太  
間島省開拓廳長 郭寶森

三江省開拓廳長 都甲謙介  
牡丹江省警務廳長 岸谷隆一郎

通化省警務廳長 馬込信一  
東安省警務廳長 原野是男

黑河省警務廳長 竹内節雄  
興安東省總務廳長 巴金保

陸敍簡任二等 縣長 趙仲達

郵政總局佈告第七〇號

鐵道列車内郵便現業事務之所掌局  
郵路區域及管轄郵政管理局之件

鐵道列車内於ケル郵便現業事務  
ノ所掌局郵路區域及管轄郵政管理局  
局ノ件

15

## 地籍整理局佈告第二五四號

土地ノ表示

錦縣北壕沿村沙河子屯  
墓地第五四號ト旱田第五二號トノ疆界

15



公 告

同法第十二條第二項公告其要旨如左

◎商租權整理審決公告  
依商租權整理法第十一條已實行審決茲依

康德六年十二月二十日

地籍整理局長 袁慶濂

◎商租權整理審決公告  
商租權整理法第十一條ニ依リ審決シタル

ノ以テ同法第十二條第二項ニ依リ左ニ其  
ノ要旨ヲ公告ス

公 告

同法第十二條第二項ニ依リ左ニ其  
ノ要旨ヲ公告ス

康德六年十二月二十日

地籍整理局長 袁慶濂

審	決	主	文	年	審	審	審決番號	坐	土	地	ノ	表	示	商租樣申告人住所氏名
計	開			月	月	日	決	落	四	至	面	積		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	許春彬ハ下記土地ニ付商租權ヲ有ス 該商租權ハ之ヲ所有權ニ轉換ス
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	康德六年 十一月二十八日
五貳四六九	五貳四六八	右	右	右	右	右	右	同	同	同	同	同	同	錦州省盤山胡家新立屯老砦臺南
右	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	楊姓
至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至	面	許春彬
本姓	本姓	本姓	本姓	本姓	本姓	楊姓	本姓	公司	王姓	楊姓	至南	面	積	錦州北鎮縣青堆子
至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	同福公司	同福公司	同福公司
壞	壞	壞	壞	壞	壞	同福公司	同福公司	同福公司	同福公司	同福公司	同福公司	同福公司	同福公司	同福公司
右	同	(他ノ貳段參七〇畝含ム)	參七〇畝	參七〇畝	壹五畝四五八	參九畝八〇八	四壹畝六四	右	同	同	同	同	同	同
右	同	右	同	右	同	右	同	同	同	同	同	同	同	同



同		同		同		同		同		同		同		同		
五貳四八七		五貳四八六		五貳四八五		五貳四八四		五貳四八參		五貳四八貳		五貳四八壹		右		
右		同		同		同		同		同		同		右		
至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	
河	徐	河	徐	溝	河	本	本	閭	洪	溝	本	主	本	主	本	本
川	姓	川	姓	渠	川	主	主	姓	渠	渠	主	主	地	地	主	主
至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	
于	徐	于	徐	溝	柳	本	閭	閭	溝	閭	閭	溝	渠	本	朴	姓
姓	姓	姓	姓	渠	姓	主	姓	姓	渠	姓	姓	渠	渠	姓	姓	姓
參照		六畝		參照七畝七分		參照貳畝八分		貳畝七畝七分		壹畝貳畝五分		六畝壹畝六分		貳畝四畝貳分		
右		同		同		同		同		同		同		同		
參照		尹		吉林省伊通縣四區孤榆樹		金		李		吉林省伊通縣四區孤榆樹		新嘉特別市永樂町參丁目貳貳番地		右		
涉		鶴		永		龍		錫		炫		吉林省伊通縣四區孤榆樹		吉林省伊通縣四區孤榆樹		
該商租權ハ之ヲ賃借權ニ轉換ス		尹起涉ハ下記土地ニ付商租權ヲ有ス		金永鶴ハ下記土地ニ付商租權ヲ有ス		該商租權ハ之ヲ賃借權ニ轉換ス		李錫龍ハ下記土地ニ付商租權ヲ有ス		該商租權ハ之ヲ賃借權ニ轉換ス		鄭來國ハ下記土地ニ付商租權ヲ有ス		該商租權ハ之ヲ賃借權ニ轉換ス		
同		同		同		同		同		同		同		同		
陳山吉林省伊通縣橫子甲榮油房屯		吉林省伊通縣橫子甲李家屯		吉林省伊通縣橫子甲王家屯		吉林省伊通縣橫子甲李家屯		吉林省伊通縣橫子甲王家屯		吉林省伊通縣橫子甲李家屯		吉林省伊通縣橫子甲王家屯		吉林省伊通縣橫子甲李家屯		



同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
五貳五〇五	五貳五〇四	五貳五〇參	五貳五〇貳	五貳五〇壹	五貳五〇〇	右	同	五貳四九九	五貳四九八	右	同	五貳四九七	吉林省伊通縣大	吉林省伊通縣大	
吉林省伊通縣榆樹村前北河子屯	吉林省伊通縣榆樹村北河子屯	吉林省伊通縣大房家屯													
至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	至東	至西	
溝	溝	溝	溝	徐	房	劉	溝	房	劉	趙	劉	溝	劉	劉	劉
渠	渠	渠	渠	姓	姓	姓	渠	姓	姓	姓	姓	渠	姓	姓	姓
至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南	至北	至南
瞧	崔	瞧劉	金瞧	房	徐	劉	吳	溝	房	溝	溝	劉	劉	溝	鄭
姓	姓	姓姓	姓姓	姓	姓	姓	姓	渠	姓	渠	渠	姓	渠	渠	姓
四响四畝五分		貳八响七畝四分		四响六畝四分		八响七畝		六响五畝七分		貳响參畝		參响	四响貳畝壹分		六畝
右		右		右		右		右		右		右	右		右
	同		同		同		同		同		同		同		同

金平濟ハ下記土地ニ付商租權ヲ有ス 該商租權ハ之ヲ所有權ニ轉換ス		同		同		同		同		同		同		同	
十一月二十九日	康德六年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五貳五壹四	五貳五壹參	五貳五壹貳	五貳五壹壹	五貳五壹〇	五貳五〇九	五貳五〇八	五貳五〇七	右	同	右	同	右	同	右	同
吉林省蛟河縣第 貳區退轉站河屯	吉林省伊通縣北 房家屯	吉林省伊通縣大 房泉屯	吉林省伊通縣樂 大橋屯	吉林省伊通縣樂 山鎮村	吉林省伊通縣樂 山鎮村莊家屯	吉林省伊通縣樂 山鎮村楊家窩棚屯	吉林省伊通縣樂 山鎮村樹村	吉林省伊通縣樂 山鎮村北河屯	吉林省伊通縣樂 山鎮村楊家窩棚屯	吉林省伊通縣樂 山鎮村樹村	吉林省伊通縣樂 山鎮村北河屯	吉林省伊通縣樂 山鎮村楊家窩棚屯	吉林省伊通縣樂 山鎮村樹村	吉林省伊通縣樂 山鎮村北河屯	吉林省伊通縣樂 山鎮村楊家窩棚屯
至西 孔 姓 至北 甸 子	至東 薛 姓 至南 河	至西 虧 渠 至北 張 姓	至東 虧 渠 至南 莊 姓	至西 莊 姓	至東 劉 姓	至西 閭 姓	至東 劉 姓	至西 虧 渠	至東 金 姓	至西 劉 姓	至東 虧 渠	至西 劉 姓	至東 渠 姓	至西 虧 渠	至東 渠 姓
壹壹晌四畝		壹晌參畝參分		四晌		貳晌		五晌		七晌六畝九分		貳晌九畝壹分		壹晌九畝五分	
吉 林 市 堤 法 司 街 貳 壹 號		右		右		右		右		右		右		右	
濟		同		同		同		同		同		同		同	



第三種郵便物記河

○康德六年度高等文官採用考試及格者公告  
○康德六年度高等文官採用考試合格者公告

高等文官考課委員長 星野直樹

等文官 (行政官) 司法官 技術官 採用考試 (銓衡) 及格者姓名如左

(頭書地名ハ即チ人物考查地ナリ)

康德六年度高等文官 (行政官) 司法官 技術官 採用考試 (銓衡) 合格者氏名左ノ如シ

人物考查地

康德六年十一月二十九日

康德六年度高等文官  
行政官 司法官 技術官 採用考試（銓衡）及格者姓名如左

明書地名卽人物者在地  
康德六年十一月二十九日

高等文官考試委員長  
星野直

行政官 司法官  
新 京 韓 洛  
原 熊 谷 奎  
田 孝 隼 人 垚  
嚴 關 尹 口 大  
守 欣 本 門  
剛 康 漢 田 善  
王 橋 大 通  
惠 三 正 治  
廷 郎 輝 信  
孫 吉 塚 田  
川 田 善 通  
金 古 山 通  
牧 田 信 通  
吳 成 通

京 福 奉 新 二 技  
 都 岡 天 京 術  
 田 口 川 宮 見 地 幢 板 田 谷 地 藤 村 崎 田 野 川 木 木 鐵 喜  
 信 靜 一 世 劍 寶 永 曾 明 文 圭 喜 行 隆 策 住 光 秀 聞 重 五 貞  
 男 慶 之 良 生 書 資 得 廣 義 洋 勝 憲 次 六 一 二 二 男 正 實 穗 一 正 勉 郎 雄 隆 昇 強 安  
 織 岳 池 張 香 陳 郭 齋 坂 山 加 松 真 城 田 大 岡 都 範 村 佐 苦 四 白 石 富 丁 張  
 田 道 之 維 田 亭 正 二 二 七 名 藤 部 西 藤 下 野 田 中 谷 本 子 登 田 坂 方 可 泰  
 助 春 市 元 雄 於 裕 太 夫 夫 幸 郎 雄 久 雄 雄 一 雄 一 雄 克 祝 成 男 鼎 崑  
 岡 橋 桑 逢 森 蓋 楊 張 佐 森 石 築 下 三 緒 上 平 孫 岡 谷 坂 藤 吉 原 徐 川 鳳  
 村 本 田 增 信 亞 聲 國 通 太 政 克 可 輝 正 西 健 二 一 丹 理 靜 龍 達 也 年  
 貢 菊 助 明 祥 行 麟 啓 新 郎 雄 夫 己 龜 雄 次 三 善 嘉 治 亨 健 雄 弘 夫  
 賈 有 周 張 孫 張 陳 關 檜 松 大 新 加 坡 魏 壱 武 山 吉 前 樺 丸 野 源 安 樂 鐵  
 村 永 田 秉 成 樹 連 道 義 克 幸 鐵 之 塘 田 川 津 川 藤 田 本 千 呂 岛 定 之  
 芳 三 昌 達 倫 架 寶 棟 慶 雄 信 己 生 治 助 男 輝 毅 智 彥 文 郎 己 明 助 清 榮 鎮  
 寺 姜 赤 王 陳 劉 呂 尚 中 德 橋 津 今 森 安 保 百 荒 竹 森 栗 國 武 賢 何  
 田 間 邦 二 振 其 原 永 本 野 井 永 達 尾 木 阳 澤 正 坂  
 孝 彌 敬 正 之 喜 賢 勝 爲 一 利 靜 太  
 一 塞 生 源 樞 奎 國 寶 之 憲 助 一 一 次 也 郎 雄 郎 祥 德 路 諭 進 海 豐

◎工場財團公告

茲由哈爾濱市道裏警察街八拾號滿洲油脂工業株式會社對屬於哈爾濱市香坊油房街第五拾號五壹號五貳號所在之製油工場之土地工作物並機械器具等爲組成工場財團聲請所有權保存登記前來就屬於右財團之動產權利者或扣押假扣押或假處分之債權者應自本公告揭載之日起三十一日之期間內將其權利呈報於本區法院

但屬於工場財團之目錄備置於本區法院以供關係者之閱覽  
康德六年十二月十三日

哈爾濱區法院

◎工場財團公告

茲由間島省延吉縣龍井街靖安區吉順路壹牌壹號（參百零九號）間島油粉株式會社對屬於該會社之土地及建築物並機械器具等爲組成工場財團而爲所有權保存登錄之聲請故就屬於右財團之動產有權利者或扣押假扣押假處分之債權者應自本公告揭載之日起於三十二日之期間內將其權利呈報於本公司

但屬於工場財團之目錄備置於本署登錄官室以供關係者之閱覽

康德六年十一月二十日

延吉縣公署

工場財團公告

哈爾濱市道裏警察街八拾號滿洲油脂工業株式會社ヨリ哈爾濱市香坊油房街第五拾號五壹號五貳號所在ノ製油工場ニ屬スル土地工作物並ニ機械器具等ニ對シ工場財團組成ノ爲所有權保存ノ登記申請アリタルニ因リ右財團ニ屬スベキ動產ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ヘ本公告掲載ノ日ヨリ三十日ノ期間内ニ其ノ權利ヲ當區法院ニ申出ヅベシ  
但シ工場財團ニ屬スベキモノノ目錄ハ當區法院ニ備附アル關係者ノ閱覽ニ供ス

但シ工場財團ニ屬スベキモノノ目録ハ當區法院ニ備附アル關係者ノ閲覽ニ供ス  
康德六年十二月十三日

哈爾濱市法院

間島省延吉縣龍井街靖安區吉順路壹牌壹號（參百零九號）間島油粉株式會社ヨリ該會社ニ屬スル土地及建築物並ニ機械器具等ニ對シ工場財團組成ノ爲所有權保存ノ登録申請アリタルニ因リ右財團ニ屬スペキ動產ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ本公告掲載ノ日ヨリ三十二日ノ期間内ニ其ノ權利ヲ當署ニ申出ヅベシ  
但シ工場財團ニ屬スペキモノノ目錄ハ本署登錄官室ニ備附ケアリ關係者ノ閲覽ニ供ス

康德六年十一月二十日

延吉縣公署

# 廣 告

## ●商業登記

### ●新京市場株式會社變更

一、董事板倉眞五、西村清兵衛、砂原滋二康德五年八月五日重任康德五年八月五日左記者就任董事

窪津一二三 新京特別市和泉町三丁目六番地監查人中川增藏、梅津清兵衛康德五年八月五日重任

一、康德五年八月五日左記者就任代表會社董事  
一、經理人選任 代表會社董事 板倉眞五

一、經理人之姓名住所  
窪津一二三 新京特別市和泉町三丁目六番地

一、營業主之姓名住所  
新京市場株式會社 新京特別市和泉町三丁目八番地

一、設置經理人之處  
窪津一二三 新京特別市和泉町三丁目八番地

一、左記者康德五年八月十日就任董事  
馬場 勇 新京特別市城後路四〇九號

一、康德五年八月十日左記者就任監查人  
鄭廷侯 新京特別市西三道街大興宿舍門牌二四號

一、總裁田中鐵三郎副總裁關潮洗理事大澤菊太郎、海上浩、高木鉄二、阿部晋、孫耀宗、王富春、監事鄭廷侯、丁士源康德五年八月十五日其住所各移轉於新京特別市大同大街五〇一號滿洲中央銀行總行

一、康德五年八月十四日新京特別市東三條通三  
二、新京特別市大同大街三〇一號康德會館內及會內之各支行各廢止之

一、康德五年八月十五日支行設立於左地  
二、新京特別市北大街西四道街

### ●三菱商事株式會社變更（外國會社）

一、董事三田三次郎之住所更正爲東京赤坂區青山南町六丁目一〇三番地一四號

一、董事松井清治郎之住所更正爲東京世田谷區代田一丁目六五二番地一號

一、滿洲電業株式會社變更  
因一部償還其社債總額變更爲日本國通貨金九百四十萬圓

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
一、履行之部分追加如左  
全額履行 李傑勳

一、鴻興德合名會社追加  
全額履行 劉新三

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 劉樹屏

一、天增鉢合名會社追加  
全額履行 杜浩

一、鴻興德合名會社追加  
全額履行 冷煥亭

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 劉玉

一、天增鉢合名會社追加  
全額履行 李志仁

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 崔晉芳

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 李琨圃

一、天增鉢合名會社追加  
全額履行 方建德

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 王吉人

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 朱寶淑

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 范魁三

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 賈鳳儀

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 李海

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 王化民

### ●新京市場株式會社變更

一、支配人ノ氏名住所  
窪津一二三 新京特別市和泉町三丁目六番地

一、營業主ノ氏名住所  
新京市場株式會社 新京特別市和泉町三丁目八番地

一、支配人ヲ置キタル場所  
新京特別市和泉町三丁目八番地

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 劉樹屏

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 劉玉

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 劉樹屏

### ●三三菱商事株式會社變更（外國會社）

一、取締役三田三次郎ノ住所ハ東京赤坂區青山南町六丁目一〇三番地一四號ト更正ス

一、取締役松井清次郎ノ住所ヲ東京世田谷區代田一丁目六五二番地一號ト更正ス

一、滿洲電業株式會社變更  
ノ内一部償還三因リ其ノ社債總額ヲ日本國通貨金九百四十萬圓ト變更ス

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
一、履行ノ部分ヲ左ノ如ク追加ス  
全額履行 李傑勳

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 劉新三

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 劉樹屏

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 劉玉

一、裕昌盛糧業合名會社追加  
全額履行 劉樹屏

國幣一萬六千六百七十圓 全額履行 左文秀  
國幣一萬六千六百七十圓 全額履行 于天富

國幣一萬六千六百六十圓 全額履行 賴景輔

經理人選任

經理人之姓名住所

劉國藩 新京特別市日出町五丁目一番地  
營業主之姓名住所

日新昌合名會社 新京特別市日出町五丁目一  
番地

設置經理人之處

新京特別市日出町五丁目一番地  
番地

株式會社木村洋行變更（支店）

康德五年七月二十日公告之方法變更如左

奉天每日新聞掲載之

天寶山礦業株式會社變更

康德四年十一月十九日目的變更如左

金、銀、銅、鉛、亞鉛、石灰、石炭之採掘販賣

前項金屬之選礦製鍊販賣

買收由他礦山之礦石或半製品

前項附帶一切業務

康德五年八月十七日登記

大矢組株式會社變更及支店廢止（支店）

康德五年八月十日公主嶺敷島町一三號之支店廢止之

店移轉於左地

康德五年八月八日公告之方法變更如左

者就任董事

藤田正一 鐵嶺市老松町八番地  
董事上片平直輔同渡邊大德同大矢奈良造同  
齋藤久太郎康德五年八月八日各重任同日左記

代表會社之董事上片平直輔同日重任

監查人藤田正一同日退任同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任同松岡佐右衛門同

高松正道同日各重任

康德五年八月十八日登記

株式會社新泰昌變更

康德五年八月八日各株已繳之金額變更如左

各株已繳額 金五十圓

扶桑海上火災保險株式會社變更及更

正（外國會社）

董事小山九一之住所更正爲東京市麹町區五

番町二五番地之一

株式會社移轉

康德五年八月十五日撫順市東二番町八番地

之本店因移轉於本管內爲如左之登記

長城金鑄株式會社

商號 新京特別市東朝陽胡同五〇四

商店 新京特別市東朝陽胡同五〇四

金鑄之採取製鍊並其他之鑄業

前項附帶一切業務及投資

設立年月日 昭和十年八月十七日

設立年月日 昭和十年八月十七日

資本之總額 金三十萬圓

株之金額 金二十圓

各株已繳額 金二十圓

公告之方法 新京特別市發刊之大新京日報

掲載之

大矢組株式會社變更及支店廢止（支店）

康德五年八月十七日登記

金鑄之採取製鍊並其他之鑄業

前項金屬之選礦製鍊販賣

他ノ鑄山ヨリ鑄石又ハ半製品ノ買收

前項ニ附帶スル一切ノ業務

康德五年八月十七日登記

大矢組株式會社變更及支店廢止（支店）

康德五年八月十日公主嶺敷島町一三號之支店

店移轉於左地

康德五年八月八日公告之方法變更如左

者就任董事

藤田正一 鐵嶺市老松町八番地  
董事上片平直輔同渡邊大德同大矢奈良造同  
齋藤久太郎康德五年八月八日各重任シ同  
者就任董事

代表會社之董事上片平直輔同日重任

國幣一萬六千六百七十圓 全額履行 左文秀  
國幣一萬六千六百七十圓 全額履行 于天富

扶桑海上火災保險株式會社變更及更

正（外國會社）

取締役小山九一ノ住所ヲ東京市麹町區五

番町一八番地之二

支配人ヲ置キタル場所

新京特別市日出町五丁目一番地  
番地

株式會社木村洋行變更（支店）

康德五年七月二十日公告ノ方法ヲ左ノ如ク

變更ス

天寶山礦業株式會社變更

康德四年十一月十九日目的ヲ左ノ如ク變更

金、銀、銅、鉛、亞鉛、石灰、石炭ノ採掘販賣

前項金屬之選礦製鍊販賣

他ノ鑄山ヨリ鑄石又ハ半製品ノ買收

前項ニ附帶スル一切ノ業務

康德五年八月十七日登記

大矢組株式會社變更及支店廢止（支店）

康德五年八月十日公主嶺敷島町一三號ノ支店

店ヲ廢止ス

支店 錦州市白雲街

康德五年八月八日公告ノ方法ヲ左ノ如ク變

者就任ス

藤田正一 鐵嶺市老松町八番地  
董事上片平直輔同渡邊大德同大矢奈良造同  
齋藤久太郎康德五年八月八日各重任シ同  
者就任ス

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

國幣一萬六千六百七十圓 全額履行 左文秀  
國幣一萬六千六百七十圓 全額履行 于天富

扶桑海上火災保險株式會社變更及更

正（外國會社）

取締役小山九一ノ住所ヲ東京市麹町區五

番町一八番地之二

支配人ヲ置キタル場所

新京特別市日出町五丁目一番地  
番地

株式會社木村洋行變更

康德五年八月八日各株ニ付拂込ミタル株金

額ヲ左ノ如ク變更ス

扶桑海上火災保險株式會社變更及更

正（外國會社）

取締役小山九一ノ住所ヲ東京市麹町區五

番町二五番地ノ二ト變更ス

株式會社移轉

康德五年八月十五日撫順市東二番町八番地

ノ本店ヲ當管内ニ移轉シタルニ付左ノ登記ヲ

爲ス

長城金鑄株式會社

商號 新京特別市東朝陽胡同五〇四

金鑄之採取製鍊並其他之鑄業

前項金屬之選礦製鍊販賣

他ノ鑄山ヨリ鑄石又ハ半製品ノ買收

前項ニ附帶スル一切ノ業務

康德五年八月十七日登記

大矢組株式會社變更及支店廢止（支店）

康德五年八月十日公主嶺敷島町一三號之支店

店ヲ廢止ス

支店 錦州市白雲街

康德五年八月八日公告ノ方法ヲ左ノ如ク變

者就任ス

藤田正一 鐵嶺市老松町八番地  
董事上片平直輔同渡邊大德同大矢奈良造同  
齋藤久太郎康德五年八月八日各重任シ同  
者就任ス

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同

監查人藤田正一同日退任シ同松岡佐右衛門同





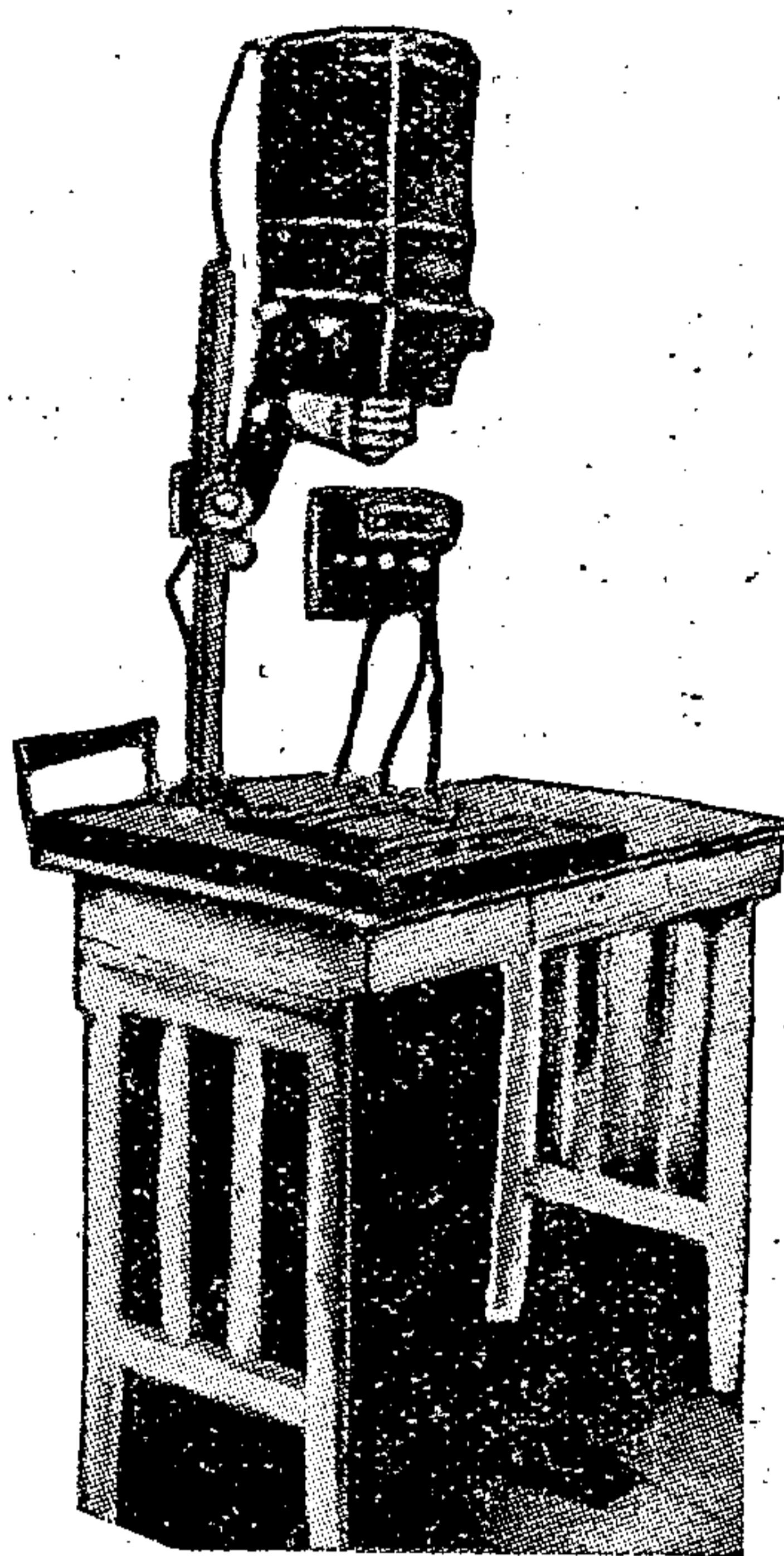
# セルフイツクス

自 動 焦 點 擴 大 伸 機



名刺判より半切まで

附 屬 品  
特許萬能マスク器  
抵足踏スイツチ  
ネガチスマスク



奉天定價 105mm F4.5四枚入レンズ付 ￥135.00

カメラの 木村洋行



	資本金	建預金	諸土未	拂	資產之	地金	銀器定	定地銀	定地銀	貸借對照表	(康德六年九月三十日現在)
合	合	合	合	付	株	部	部	部	部		
右之通候也											
康德六年十二月											
資本金 貳千萬圓 (拂込壹千參百萬圓)	一〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	資本金	(康德六年九月三十日現在)								
弊社今般株主總會ノ決議ニ依リ左ノ通増資仕候間此段謹告	四七四、八九三・八八	四二六・七五	四、三六七・五〇	二八七、六八七・四五	七五〇〇、〇〇〇・〇〇	四、二五二、二九九・四七	一、六五二、二九九・四七	八〇、三三四・九五	四七四、八九三・八八	資本金	(康德六年九月三十日現在)
候也											
記											
○資本金 貳千萬圓 (拂込壹千參百萬圓)											
康德六年十二月二十日											
增資公告											
會株式大興公司											
本店新京特別市大同大街貳零貳號											
支店奉天、吉林、新京、哈爾濱及錦州											
營業所公濟當一九二店永濟當一一三店											
廣信當四九店興濟當九永衡衣莊一店											
計三六四店一九〇箇所											

# 會計事務の不安解消す

由來官廳會計組織の全般に亘つて細大となく之を知悉し、些の滯滯なく運用せんとすることは、専門の吏僚と雖もなほ至難とする所である。況して滿洲國の現段階に於ては一層の困難を嘗めるのは必然である。著者はこれを思ひ開拓者たる意氣を以つて、多年の蘊蓄を傾倒して本書を大成した。行文平易、解説また懇切を極めるものあるため職を官廳會計事務に執る者の常に座右に置いて指針たらしむべき、我國空前の實務指導書である。敢て推薦する。

審計官永田信熊著

定價 參圓五角整 (送料二角二分)  
菊判本裝函入五百二十六頁



各地書店發賣

次目容内	
第一章	總則
第二章	豫算
第三章	準備金
第四章	國債及豫算外國庫の負擔となるべき契約
第五章	收入
第六章	支出
第七章	端數計算
第八章	決算
第九章	豫算定額の繰越、過年度收支豫算外收入及定額の繰越
第十章	時效及租稅外諸收入金の
附錄	○組織法
第十九章	會計監督
第二十章	○關係諸法令

- 會計法
- 會計規則
- 特別會計法
- 特別會計規則
- 國有財產法
- 政府契約規則
- 物品供給規則
- 支出官事務規程
- 有價證券取扱規程
- 滿洲中央銀行國庫金取扱規程
- 審計法
- 審計規則

發行所 新京興安大路一一六號  
滿洲行政學會

振替新京一九一一番